

|               |   |
|---------------|---|
| Title         | 中国語授与構文のシンタクス   |
| Author(s)     | 杉村, 博文  |
| Citation      | 大阪外国語大学論集. 35 p.65-p.96   |
| Issue Date    | 2007-03-09  |
| oaire:version | VoR   |
| URL           | <a href="https://hdl.handle.net/11094/80014">https://hdl.handle.net/11094/80014</a> |
| rights        |   |
| Note          |   |

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 中国語授与構文のシンタクス

杉 村 博 文

### Syntax of Giving in Modern Standard Chinese

SUGIMURA Hirofumi

**Abstract :** In Chinese, the syntax of giving has enjoyed the continuous attention of researchers over the last three decades. A large amount of interesting linguistic phenomenon was excavated, and various explanations were given to them from the various theoretical points of view. However, the author noticed some problems still left to require more detailed examinations and explanations after a minute investigation of the syntax of giving in Modern Standard Chinese (MSC) by using a large electronic corpus. The paper describes and analyzes the syntax of giving in MSC synchronically from the viewpoint of an interaction of *predicate verbs*, *Gei* (给) and *constructions*. The language data that the paper investigates is MSC used in contemporary novels, and it is not a data of high purity in nature at all. Therefore, the conclusions in the paper are more correct to call them *tendencies* rather than to call them *rules*.

**Key words :** Modern Standard Chinese, syntax of giving, corpus linguistics, typology, *Gei* (给)

#### 1. はじめに

過去 30 年以上にわたり、歴史文法、方言文法、言語類型論、生成文法、認知言語学などさまざまな視点と目的をもった研究が大量になされた結果、中国語の授与構文に関する数多くの興味深い言語事実が発掘され、同時に理論的解釈も与えられてきた。しかし具体的細部には、まだなお未確認の現象が少なからず残されているように思われる。いくつか具体例を挙げてみよう。

例(1)(2)の下線部における“还”と“还给”の使い分けを語用論的角度から論じた研究はいまだなく、中国語教育の現場から回答が求められている<sup>(1)</sup>。

(1) 霞姐，请原谅，你的钱过一阵子凑齐了再还给你。(王静怡：静如人生)

(2) 真他妈的铁公鸡，一毛不拔，又不是不还你！（苏叔阳：左邻右舍）

例(3)(4)の形式的な違いは間接目的語（以下 IO）が人称代名詞であるか固有名詞であ

るかにすぎないのだが、その許容度は大きく異なり、動詞を“递”に限定した場合、(4)に類する事例はコーパスに観察されない<sup>(2)</sup>。

(3) 秘书递他两张打字纸。

(4) <sup>?</sup>秘书递杨昌明两张打字纸。

朱德熙(1979)に“他写给校长一封信”という例が見える。しかしコーパスに見る限り、“写给”はIOのみを従え、IOと直接目的語(以下DO)の2つをともに従えることはない<sup>(3)</sup>。例えば、

(5) 信，竟是写给王少怀的。(李迪：傍晚敲门的女人)

(6) 这是欧阳云写给王少怀的第二封信。(同上)

朱德熙(1979)の記述に基づけば、“介绍”は“给”を伴い二重目的語を従えてよいはずであるし、Hashimoto(1993)にも“他介绍给我几个朋友”という例が見える。しかし事例は発見されず、DOの情報特性(「定」情報であるか「不定」情報であるか)を基準にして、以下の二種の構文による分業が行われている。

(7) a. 柳彦萍给女儿介绍了一个对象。(杨镰：千古之谜)

b.\* 我给您介绍他。

(8) a. 爸，我把他介绍给你，行吗？(佳云：背影)

b.\* 柳彦萍把一个对象介绍给女儿。

“给+IO”を句末に置いた以下のようなパターンも観察されるが、用例は多くない。

(9) 老Q为我写小说介绍了不少名人给我，大多是些名声大振的中年人。(徐星：无主题变奏)<sup>(4)</sup>

本稿は中華人民共和国の“普通话”(以下「標準語」)における授与構文の詳細を確認することを主たる目的とする。取る方法は、主として中国における先行研究をコーパスを利用して再検討しながら、授与構文の使用状況を記述し、分析してゆく<sup>(5)</sup>。ただし、調査対象を「現代小説の中に用いられた標準語」というゆるい基準で括り、その記述と分析が行われるため、得られた結論は規則としてではなく、むしろ傾向として理解されるべきものである。

## 2. 動詞のタイプと構文

2.1. 事物の授与(と取得)を表す構文を動詞と“给”との関連で整理すれば以下のようになる<sup>(6)</sup>。

### GIVE 型動詞

I 他送了我一瓶好酒。

II 他送给我一瓶好酒。

III —

### MAKE 型動詞

I —

II —

III 他给我刻了一个图章。

## KICK 型動詞

- I           —  
 II 他踢给我一个球。  
 III          —

## TAKE 型動詞

- I 她偷了我一副耳环。  
 II           —  
 III 他给我买了一副耳环。

## MAIL 型動詞

- I           —  
 II 我寄给他一个包裹。  
 III 我给她寄了一个包裹。

“他送一瓶好酒给我”のような“连谓”型の構文（第Ⅳ構文）は、動詞の個性と構文の成否との間に密接な相関関係をもたず、標準語において活躍する構文とも認められないため、論証の必要に応じて簡単に触れるにとどめる。“我把打火机递给他”のような、“把”によって DO を導く構文も主たる考察対象とはしないが、こちらは極めて使用頻度の高い構文であるので、適宜分析を加えてゆくことにする。

2. 2. 以上5タイプの動詞のうち、GIVE 型動詞と KICK 型動詞はともに授与動詞“给”を伴って二重目的語を従えることが可能で（第Ⅱ構文）<sup>(7)</sup>、両者の違いは第Ⅰ構文に適合するかどうかにある。GIVE 型動詞は本来的に「与える」という意味特徴を具えており（以下 [+与]）、一定の制限を満たせば“给”の助けを借りることなく二重目的語構文を成立させるが（第Ⅰ構文）、KICK 型動詞は [+与] ではないため（以下 [-与]）、単独では二重目的語を従えることができず——“\*他踢了我一个球”が成立しない——、授与動詞“给”と結合してはじめてそれが可能になる。

MAKE 型動詞と TAKE 型動詞はいずれも第Ⅱ構文に適合しない。MAKE 型動詞はさらに第Ⅰ構文にも適合せず、“\*他刻了我一个图章”と言えないが、TAKE 型動詞は第Ⅰ構文に適合し、“她偷了我一副耳环”（彼は私のイヤリングを一組盗んだ）と言える。これを「取得型第Ⅰ構文」と呼ぶことにする。この構文は授与を表すことがなく、その意味で本稿の議論からは大きく逸脱するが、述部の構成など授与型第Ⅰ構文と共通するところが大きく、また近年さまざまな角度から多くの研究が発表されているので、それらの検討も交え議論の対象として取り上げる。

MAIL 型動詞は第Ⅱ、第Ⅲ構文を構成するが、第Ⅰ構文が成立しない。例えば“\*我寄了他一个包裹”と言えない。また成立する第Ⅱ、第Ⅲ構文にしても、個々の動詞によって用法に微妙な揺れが生じており、研究者間でも成否の判定に食い違いが見られ、この類の動詞の用法に断定的な記述は難しい。

2. 3. TAKE 型動詞と MAKE 型動詞、中でも TAKE 型動詞に成立する第Ⅲ構文を「本来的」な授与構文であると見なし得るか否かという問題がある。例えば“我给妹妹买了一件毛衣”を例に取ると、朱德熙(1979)は“妹妹”を“受者”（受領者, recipient）であるとも“服务的对象”（奉仕対象, beneficiary）であるとも見なしうるとし、どちらであるかは“给”

が動詞であるか前置詞であるかによって決まるとした。この処理は後に論議を呼び、現在ではほぼ否定されているといってよいであろう<sup>(8)</sup>。しかしながらその一方で、「私は妹にセーターを買っ（てやっ）た」は標準語では“我给妹妹买了一件毛衣”としか表現のしようがなく、さらにこの構文は以下のような変遷を経てできあがった可能性が高い。

|            |              |              |
|------------|--------------|--------------|
| 第Ⅳ構文       | 第Ⅱ構文         | 第Ⅲ構文         |
| 我买了一件毛衣给妹妹 | → *我买给妹妹一件毛衣 | → 我给妹妹买了一件毛衣 |

この変遷過程は MAKE 型動詞の場合も同様であると考えられる。

|            |              |              |
|------------|--------------|--------------|
| 我打了一件毛衣给哥哥 | → *我打给哥哥一件毛衣 | → 我给哥哥打了一件毛衣 |
|------------|--------------|--------------|

受領者が文末から左方へと移動し、受領者を導く“给”と述語動詞が複合語を構成する意味論的親和性に乏しいことにより、第Ⅱ構文に止まることなく一気に動詞の前に出てしまったという解釈である。方言における分布を言うと、広州方言では第Ⅳ構文のみ、太原方言では第Ⅱ構文のみ<sup>(9)</sup>、そして標準語では第Ⅲ構文が主として使用される。この受領者の左方移動は“在”で導かれる「場所性終点」の動きに一致する。本稿では“给”の品詞問題には踏み込まず、“给”が受領者を導く場合に限り、第Ⅲ構文を授与構文の一種として扱う。

2.4. 構文Ⅰ・Ⅱ（受領者後置型）とⅢ（受領者前置型）の違いはどういう事情に起因するものであろうか。GIVE 型動詞と TAKE 型動詞を例にとって言うと、それは両タイプの動詞が演出する行為、所謂「認知フレーム」の中で受領者がいかなる地位を占めるか、その違いの反映である。GIVE 型動詞の“卖”と TAKE 型動詞の“买”でこの点を確認してみよう。下例は2つの動詞の行為参与者に関わる認知フレームを具体化したものである<sup>(10)</sup>。

(1) 小王 以 10 块钱 卖给 小张 一件旧衬衫。

(2) 小张 花 10 块钱 从小王那儿 买了 一件旧衬衫。

“卖”では受領者（“小张”）が初源的に認知フレームの中にあり言語化される。一方、“买”においては、受領者は通常、購買者自身であり、両者は主語の上に重なり合う。購買者と重ならない受領者は、初源的な認知の視野(perspective)には存在せず、拡大された二次的な認知フレームの中で取り込まれる。換言すれば、受領者は“卖”にとっては行為を完成させる一次的成分であり、受領者が存在しなければ“卖”という行為は完成しない。“买”にとって受領者は、すでに購買者として存在し、購買者以外の受領者は行為を完成させるための一次的成分ではなく、「受益者の受領者」として二次的に取り込まれるにすぎない。よって、たとえ購買者以外に受領者が存在しなくても、購買という行為は滞りなく完成する。この初源的受領者と二次的な受益者の受領者という対立を根拠に、換言すれば、必然的終点と人為的終点という対立を根拠に、行為参与者の配置方式の違い（前置と後置）として反映しているのである。

### 3. GIVE 型動詞

3. 1. 本来〔+与〕である GIVE 型動詞——“送，还，交，付，赏，借（借出），退（退还），派（委派），分配，递”等——にとって，授与動詞“给”との複合は意味論的にも構文論的にも屋上屋を架す操作であるように見える<sup>(11)</sup>。それにも関わらず，GIVE 型動詞が“给”を伴うことにはどのような事情が介在しているのであろうか<sup>(12)</sup>。

GIVE 型動詞における V と〈V 给〉の並存に関しては，共時論的な分析がいくつか存在する。朱德熙(1979)は前者を後者の“紧缩形式”であると分析し，“给”は“可出现可不出现 (optional)”であるとした。施关淦(1981)は“给”の品詞分類に強い関心を示し，“给”は動詞に含まれた意味の外形化であり，〈V 给〉は行為の全過程を言語化したものであると述べた上で<sup>(13)</sup>，“给”は GIVE 型動詞に対して「授与の語気を強める補助機能」を果たす助詞と見なすのが妥当であるという結論を導き出した。李临定(1986)は GIVE 型動詞が“给”を帯びることの意味をもう少し明確に述べ，“更明确衬托出给予的意义和给予的对象”（授与の意味と授与の対象をよりはっきりと際立たせる）と規定した。

卢涛(1993)は“给”を「受領者への授与を明確化する」役割を担う，文法化した「接辞」とであると捉え，“把”構文と“是……的”構文に現れた GIVE 型動詞が“给”を強く要求する現象を分析することでそれを立証しようとした。“给”の意味に対する認識で言えば，卢涛(1993)は施关淦(1981)の認識とほぼ同じ流れにあるが，論証に構文との相関関係を導入した点で施关淦(1981)の分析を一步進めている。しかしながら，“把”構文にしろ“是……的”構文にしろ，“送，借，还”など典型的な GIVE 型動詞にとっては<sup>(14)</sup>，“给”の付加が任意である状況も存在し，その場合は“给”付加の理由を意味論的要因に求めざるを得ない。卢涛氏も筆者の 1 人に名を連ねる Shibatani 他(1994)では，GIVE 型動詞に“给”が付加されることの意味を「おそらく付加された“给”の総体的役割は述語が三項であることを明確に示すことであろう」と解釈している。本来三項動詞である GIVE 型動詞に三項であることを明確に示させるというのは，ニュアンスに多少の違いはあるが，「受領者への授与を明確化する」という卢涛(1993)の主張を言い換えたものである。

3. 2. 近年，生成文法，認知言語学，方言文法，歴史文法等の立場からの研究が進捗を見せ，〈V 给〉はまったく異なるパラダイムの中で語られはじめた。それらの代表的な研究として，生成文法からは顾阳(1999)と邓思颖(2003)，認知言語学からは沈家煊(1999)，言語類型論・認知言語学からは刘丹青(2001)，歴史言語学・認知言語学からは张国宪(2002)などが挙げられる。具体例を用いて言えば，“他送给我一瓶好酒”は“他送一瓶好酒给我”から“给我”が前移して生まれたもので，“给”は古代漢語の“于”，近代漢語“与”を前身とする前置詞であるとする分析である<sup>(15)</sup>。そして“他送给我一瓶好酒”から“给”が脱落したものが“他送我一瓶好酒”となる。このような解釈は，“他送一瓶好酒给我”（およびその緊縮形である“他送一瓶好酒我”）という構文はもつが，“他送给我一瓶好酒”や“他送我一瓶好酒”をもたない方言が東南部を中心に少なからず存在することをその主たる根拠とし<sup>(16)</sup>，英語などの二重目的語構文に関する生成文法の知見がその背景として存在するようである<sup>(17)</sup>。詳細は参考文献に譲るが，本章ではこの議論の流れを承けて，標準語にお

ける第Ⅰ構文（“他送我一瓶好酒”）と第Ⅱ構文（“他送给我一瓶好酒”）の分業状況を共時論的に考察する。

3. 3. 中川(1973)に夙に指摘があるように、GIVE型動詞が二重目的語を支配しえるのは、IOが人称代名詞からなり、DOが数量限定を受けている場合が圧倒的に多い。“递他一本儿书”の許容度は高いが、IOを固有名詞に換えた“<sup>?</sup>递张华光一本儿书”の許容度は低く、不自然さを回避するには“给”を加えて“递给张华光一本儿书”とする必要がある<sup>(18)</sup>。代表的な授与動詞である“送”や“还”でさえも、“给”を伴うことなくIOとして固有名詞をもつことは少ない。朱德熙(1979)に挙げられた第Ⅰ構文のIOが、“借”の多義性を説明するために用いられた“张三借李四一本书”を唯一の例外とし、すべて人称代名詞であることは決して偶然ではないと思われる<sup>(19)</sup>。実例を示す。

- (1) 他听了她的演奏，特地送了她一束白郁金香。(韩少功：昨天再会)
- (2) 我的身体亏得很厉害，这会儿是又累又乏，连还她一个微笑都没力气也没兴趣。(王朔：一半是海水，一半是火焰)
- (3) 子卿母亲交我一条棉裤。重得像一床棉被，简直使我怀疑絮的不是棉花。(梁晓声：翟子卿)
- (4) 她把旅行包搁到地上，递我一张纸条。(刘心武：白牙)
- (5) 赵景宇亲自为他倒了一杯茶，还敬了他一杯茶，还替他点烟。(梁晓声：恐惧)
- (6) 她说上班不到一周处长就派了她一个独立完成的工作。(裘山山：锁着的抽屉)
- (7) 稿费也有限。可是发他一个记者证章，他可以凭这证章四出活动，自己去找饭辙。(邓友梅：那五)

〈\_\_\_\_ + IO<sub>(代名詞)</sub> + (数)量詞 + DO〉という環境でなければ、GIVE型動詞も“给”を伴うのが普通である。例えば、

- (8) 他认为饮茶能清心修行，戒躁制怒，便送给警卫排长一把曼生壶。(叶大春：三癡录)
- (9) 此外，医生还交给周所长一个五六十分长的氧气瓶，让他带回去……。 (李岩希：一个派出所的故事)
- (10) 金绮纹递给了石义海一个尺把长的布包袱。(刘心武：如意)
- (11) 正巧，电影制片厂来信，想要开拍一部三角恋爱凶杀片子，派给马蹦蹦一个角色，……。 (刘绍棠：花天锦地)
- (12) 市政府为了照顾盲人，在煤气炉供不应求的情况下，特意发给每个盲人家庭一套煤气炉。(航鹰：明姑娘)
- (13) “给，这是你的化验结果。”郑繁梅把化验单递给谢凌枫。(杨镰：千古之谜)
- (14) 白慧……，也连喝三小盅，因为这三盅是敬给她热爱、怀念和已经离开了她的人。(冯骥才：铺花的歧路)

(8) から (11) は IO が固有名詞および“每个盲人家庭”であるため、“给”を落とすと不自然になる。(13) と (14) では構文的に“给”の使用が強く求められ、“给”を落とすと文が成立しなくなることが多い<sup>(20)</sup>。実際 〈\_\_\_\_ + IO<sub>(代名詞)</sub> + (数)量詞 + DO〉以外の環境で GIVE 型動詞が“给”を落とした用例は、動詞が“送，还，借”である場合を除いてなか

なか見つからない<sup>(21)</sup>。

(15)他们还叫我把你送给我的小人儿书和铅笔盒都还给你。(从维熙：断桥)

～他把季陶民送他的画都放在他的棺材里。(汪曾祺：鉴赏家)

～不过，明天你还是把闹钟还我好吗？(叶蔚林：蓝蓝的木兰溪)

(16)像我们现在这样子，谁敢把钱借给我们呀！(张平：抉择)

～我他妈又不是财主，净把钱借他，自个儿连烟都抽不上了。(王朔：我是“狼”)

以上から、第 I 構文は IO に自己主張の弱い人称代名詞であることを要求し、DO に数量詞を伴った自己主張の強い形式であることを要求することがわかる。自己主張が弱いとは、情報として旧く、照応的に存在し、形式的に小さいという意味で、その逆が自己主張が強いである。情報として新しく、情報伝達上の要請から存在し、形式的に大きいという特徴をもつ。刘丹青(2001)の言葉を借りれば、第 I 構文は、主題性が強く軽い IO が前置され、新情報を伝え重い DO が後置されて生まれたものだということになる（“此式的常用实际上是话题前置和重成分后置合力的结果”）。既知で小さい成分を前置し、未知で大きい成分を後置するのは情報処理上も適切であるとされる。そうすれば、先に負担の軽い処理を少しの資源で済ませ、その後、残った資源をすべて負担の重い処理に回せるからである。陆丙甫(2004)はこの状況を“‘内小外大’原则”，“减少中间干扰”，“大块置两端”等の言葉で表現している。

IO の形式と“给”の使用不使用の相関に基づく分析から共時論的な結論を引き出せば、一つの動詞が語順のみに頼って 2 つの目的語を支配する第 I 構文は構造的に無理をしたものであるという結論が得られる<sup>(22)</sup>。換言すれば、第 I 構文における IO は〈V+IO<sub>(代名詞)</sub>+(数)量詞+DO〉という構造に組み込まれることによってその存在を保証されている性格が強いのである。これを動詞の側から考えると、〈V+IO<sub>(代名詞)</sub>+(数)量詞+DO〉という構造に頼らず IO を支配する場合、動詞は授与動詞としての性質を自ら強化しなければならないということになる。本稿はこれを Shibatani 他(1994)が言う「述語が三項であることを明確に示す」の正体であり、GIVE 型動詞が“给”を帯びる構文論的理由であると考え<sup>(23)</sup>。

第 I 構文の授与構文としての弱さは英語の二重目的語構文などと比較すると際立ってくる。上述の IO と DO の形式に対する制約のみならず、授与構文として文中に取り込める動詞のタイプも英語の二重目的語構文などに比べると貧弱である<sup>(24)</sup>。以下に、特定のタイプを構成せず、且つ三項動詞とは目されない動詞が〈V+IO+(数)量詞+DO〉に取り込まれて授与構文を構成している用例を挙げておく<sup>(25)</sup>。

(17)凌晨三点，在水坝干燥处遇到一个阎罗似的钓鱼迷。他裹着一件雨衣，支援了鄙人一块塑料布，在将睡未睡的状态中聊着天，亲热得相见恨晚似的。(刘恒：虚证)

(18)“纪念品？”“好多的会都有嘛。姓曹的小子（曹秘书）那次开会，人家纪念了他个什么锅。……”（吕新：圆寂的天）

(19)燕子，麻烦你一件事行吗？(刘震云：手机)

(20)那些照片提醒了宋建平一件几乎被他忘记了的事情。(王海鸰：中国式离婚)



以上の特徴に加えて、〈V+IO+(数)量詞+DO〉には事物の移動の方向が逆転する現象も見られる。全体（構文）の意味の決定において、全体よりも部分（動詞）の意味が上位に立ってしまうのである。この点は改めて後述する。

3. 4. では、構文上“給”を任意的要素としうる場合，“給”の付加はどのような意味をもつのであろうか。例えば以下の例、

(21)a. 这裙子送你——也就你配穿。(杨遐：徘徊的青春)

b. 这些东西我先拿走，用完还你。(王朔：橡皮人)

このような“給”を使用しない形式に対して、ネイティヴは「ぞんざいな」表現であると感じる。よく言えば、友達同士のような言葉遣いである。以下の用例を比較されたい。“給”の有無と表現の「丁寧」対「ぞんざい」の対比が鮮明に読み取れる<sup>(26)</sup>。

(22)a. 您要是喜欢这烟斗，就送给您吧！（冯骥才：雕花烟斗）

b. 一些新开学的小学生从我身边走过扔下几个“可乐”瓶，说：“收破烂儿的，送您吧！”（出处失记）

(23)a. 霞姐，请原谅，你的钱过一阵子凑齐了再还给你。(王静怡：静如人生)

b. 真他妈的铁公鸡，一毛不拔，又不是不还你！（苏叔阳：左邻右舍）

(24)a. 人家特意送给您一瓶好酒，我给您拿去——（苏叔阳：左邻右舍）

b. 要是手也舍不得卖，人也舍不得卖，就再卖我一套“古月轩”的小玩意儿吧？（邓友梅：烟壶）

下例の2箇所の下線部には、動詞（“送～送给”）・IO（“他～外宾”）・DO（“东西～礼物”）のすべてにわたって「ぞんざい」対「丁寧」の対立が見られる。

(25) 爸，听说老孔要出国，外贸上的朋友非要送他东西不成。这咱们哪能要哇，后来一想，反正出国也得送给外宾礼物吗？收就收吧……（苏叔阳：家庭大事）

注意したいのは、「ぞんざい」対「丁寧」という対立を日本語の待遇表現における「謙讓」対「尊敬」という対立に置き換えないようにすることである。「丁寧」であって「尊敬」でないことは、IOの位置に第一人称の現れる例が少なくないことから分かる。次の例は中国の女性作家冰心が作家仲間の井上靖氏（いずれも故人）から本を贈られたときのことを回想して書いた文章の一節である。

(26) 那天井上先生送了我好几本他的大作。他知道我不懂日文，还送我一本英译的《猎枪》。(冰心：关于女人和男人)

“送我”とした言葉遣いが「仲間」を感じさせる。ここで“井上先生送给我……”とやってしまうと、表現の丁寧さがかえって敬して遠ざける効果を生み、井上靖を単なる“外国朋友”に変えてしまう可能性が生じる。

以上見たように，“給”の用不用は使用環境によっては表現の丁寧度に微妙な影響を与えるようである。選択のあるところには意味の違いが存在するという単純な真理がここでも証明されたことになる。“給”を付加することに形式的要請以外の理由——意味論的な要請が存在したのである。そして“給”の付加による丁寧度の獲得は、単音節が複音節になったことによると単純に片づけることも可能であるかもしれないが，“給”の付加に伴

う授与義の強化, 授与義の強化に伴う受領者の前景化にあると考えたい。比較されたい。

- (27) 司务长送他<sub>IO</sub> 一只会奏音乐, 会唱歌的外国小手表 <sub>DO</sub>, 说送给他未来的媳妇 <sub>IO</sub>。(王润滋: 三个渔人)

送他一只会奏音乐, 会唱歌的外国小手表: IO 背景化, DO 前景化→“给”消失  
送给他未来的媳妇: IO 前景化, DO 背景化→“给”出現

- (28)a. 给您。这几个特地多放了糖和芝麻。(丁寧; 毕淑敏: 一厘米)

b. 燕燕, 王爷爷上次答应的, 送你一支日本圆珠笔, 给! (ぞんざい; 谌容: 燕燕的作文)

上例 (27) は受領者の背景化・前景化と“给”の出現・消失の相関関係を物語っており, (28) の2例は明確に「あなたにですよ」と「念を押す」ことが, 対人関係の丁寧さに繋がることを示している<sup>(27)</sup>。

下例 (29) (30) において, IO は送り手と熟知の間柄にある。この場合, 話者の気分次第で“给”の用不用は決まる。「ぞんざい, 仲間」対「丁寧, 遠慮」の対立である。(31) の場合はそうではない。(31) は授与行為を一般化して述べたケースで, IO は特定の顔をもたない。つまり, 李临定(1986)の言う「授与の意味と授与の対象をよりはっきりと際立たせる」という状況になく, “给”を使用する動機づけに乏しい<sup>(28)</sup>。

- (29) 我频繁地送她东西, 有一回甚至把母亲家传的一枚翡翠项坠偷出来取悦于她。(铁凝: 对面)

(30) 人家真心实意送你生日礼物, 你倒一脑门子官司对人家, 像话吗? (苏叔阳: 旋转餐厅)

- (31) ……所以在中国送人礼物的时候, 特别是给年纪比较大的人, 一般不送钟。(出处失记)

3. 5. 〈V+给+IO+数量+DO〉は構造として已然の事態を伝えていると理解させる力が強く, 完了相の“了”や経験相の“过”を帯びることは少ない<sup>(29)</sup>。中でも“过”を帯びた以下のような用例は極めて珍しい。

- (32) 唐先生, 您知道俺爹多喜欢您刻的烟斗吗? 您曾送给过他一只烟斗吧! (冯骥才: 雕花烟斗)

“了”を帯びた用例は“过”に比べれば多いが, 全体的にはやはり少ない。

- (33) “小秦子, 今儿怎么样?” 苏五一递给他一颗烟。(陈建功: 前科)

(34) 校长走了, 他留给了我们一个极好的印象, ……(老舍: 月牙儿)

〈V+给+IO+数量+DO〉の已然指向はその中に含まれた特定の成分に帰すのではなく, 〈V+给+IO+数量+DO〉という構造に帰するのが妥当であろう。〈V+给+IO+数量+DO〉は, IO と数量という確定情報を2つながらに含んでおり, とりわけ確定した数量情報は已然との親和性が高いように思われる。同じく已然指向でありながら已然標識の使用が少ない“张三递过来一支烟”のような表現形式を彷彿する。

〈“把”+DO+V+给+IO〉と比較すれば〈V+给+IO+数量+DO〉の已然指向はより明らかになる。沈家煊(1999)に〈V 给〉が“了”を伴うと通常〈“把”+DO+V+给+IO〉が採用されるという指摘がある<sup>(30)</sup>。この指摘は〈“把”+DO+V+给+IO〉は〈V+给+IO+数量+DO〉ほど構文自体の已然指向が強くないとも読める。ただし、〈V+给+IO(+数量)+DO〉もDOのIOへの移行の実現を常に保証するものでもないようである。例えば、下例では後続する否定表現や加えられた未然表示の成分(“要”)によって、DOのIOへの移行の未了が示されている。

- (35) 阿尼悄悄递给我一条小手绢, 我没接, 我想让这混蛋泪水流个痛快, ……。(刘毅然: 摇滚青年)
- (36) 二爷给女人倒了一杯茶, 送给她<sup>(31)</sup>, 她不接, 便放在桌上。(尤凤伟: 石门夜话)
- (37) 这老范的性格真够怪的。自己刚和他认识那次, 曾经要送给他一只烟斗, 他怎么不要呢?(冯骥才: 雕花烟斗)

#### 4. KICK 型動詞

4.1. KICK 型動詞——“扔, 甩, 投, 丢, 甩, 拿(用手或用其他方式抓住, 搬动), 推, 掏, 泼”等——は本来的には[-与]である。しかしこのタイプの動詞は事物の外向きの移動を引き起こす。この外向きの移動が事物の授受の手段として援用されると“给”との結合が可能になり、授与動詞としての構文論的特徴を獲得する<sup>(32)</sup>。

- (1) 他隔着两排桌子扔给我一块抹布, ……(刘恒: 虚证)
- (2) 会计……“叭”一下就甩给了他二十张五块的厚厚的一叠, ……(方方: 凶案)
- (3) 他吩咐白大省拿给他一套床单、被单, 他站在床脚双手掇住床单两角, ……(铁凝: 白大省)
- (4) 跟着手推车走一趟, 不过几十米的距离, 倒好象从兜里掏给人十元钱那么不痛快。(张洁: 方舟)

GIVE 型動詞にとって“给”の付加は結合価(valence)の増加をもたらすものではなかったが、KICK 型動詞にとって“给”の付加は、受領者という被支配項の増加に加え、増加した項をIOとして支配する文法操作である。

行為者の移動,あるいは行為者の部分の動きが事物を移動させる手段となる場合がある。“捎, 带, 端, 捧, 伸, 指”等であるが、これらの動詞もKICK 型動詞に含めていいだろう。やはり“给”と結合して、第Ⅱ構文を形成する。

- (5) 他捎给我一封信。(语法书)
- (6) 她说她还带给我一样东西, 是在国际列车上从一个俄罗斯倒爷手里买的, ……(铁凝: 对面)
- (7) 仙姑端给他一杯感冒冲剂, ……(刘恒: 四条汉子)
- (8) 别人捧给她一颗赤裸裸的、不设防的心, 她只恨没有地缝钻进去。(杨遐: 徘徊的青春)
- (9) 妻子只得把女儿放到地上, 伸给她一根手指头, 让她握着站稳。(朱苏进: 轻轻地说)

- (10) 他说得一本正经，好像一个教堂里的牧师，在指给迷途的人一条生路。(陈宝琛：  
新复职的侦察处长)

最後の例は「指し示す」ことによって視線の移動と目標の捕捉を実現し、それによって知識を IO に授与した例である。

4. 2. 张伯江(1999)には“队长扔我一块木头”という例が見られ，Construction Grammar の理論によって成立根拠が説かれている<sup>(33)</sup>。しかしこの例はネイティヴによって成否の判定が大きく揺れ，南方方言話者はほとんどが成立を否定する。また“\*踢我一个球”が成立しないことを加味すれば，“扔我一块木头”は字面以上の意味を伝えて成立していると考えたほうがよい。言葉を換えれば，“扔我一块木头”と“扔给我一块木头”を単純に同義の表現であると考えないほうがよいということである。

日本語でも「投げた」と「蹴った」では受容度に差が生じる。「<sup>?</sup>彼は私にボールを投げた」の許容度は「<sup>?</sup>彼は私にボールを蹴った」より高く、「彼は一塁にボールを投げた」「彼は私に石を投げた」とすると許容度はさらに上がる。「一塁」は投擲対象の場所性を高め、「石」は投擲行為の攻撃性を高める。それが IO との親和性を強化するのである<sup>(34)</sup>。標準語においても「物を投げる」ことは「攻撃する」に繋がるばかりか，攻撃対象を目的語として従えることも可能である<sup>(35)</sup>。

- (11) ××上课时，用粉笔头扔同学，居心何在？(王安忆：69 届初中生)

- (12) 王栓不动声色地坐在那里，像一头被人锁在动物园的铁笼里，任人用石头扔，用唾沫吐的四不象。(张洁：用三根弦奏完自己的歌)

“她喷了他一脸唾沫”などはまさしく「攻撃」そのものであり，授与の意味は含まない。よって，“\*喷给他一脸唾沫”も“\*喷一脸唾沫给他”も成立しない。以下の例は攻撃の発展形である。

- (13) 只是因为他说了一句不该说的话，她打了他一个嘴巴。(洪峰：夏天的故事)

- (14) 奶奶特别疼水生……长这么大，没捅过她一个手指头；……。 (浩然：水生)

沈家煊(2000)は“他扔我一只球～他扔我一支烟～<sup>?</sup>他扔我一支铅笔～<sup>?</sup>他扔我一台收音机”のように DO を変化させ，同じ構文であっても DO の違いによって許容度に違いが生じる現象を指摘して，その理由を理想的認知モデル ICM の視点から論じている。

人们经常扔球给别人接，扔烟给别人抽等，但不经常扔铅笔给别人写、扔收音机给别人听。[我々はよくボールを投げて与えて人にうけさせたり，タバコを投げ与えて人に吸わせたりするが，鉛筆を投げ与えて書かせたり，ラジオを投げ与えて聞かせたりすることはまずない。]

そして沈氏は朱德熙(1979)が指摘した“写信”と“写春联”の違いも——“我写给他好几封信”は成立するが，“\*我写给他一副春联”は成立しない——，“写”という行為の ICM の違いから生じていると展開する。

“写”的 ICM 包括我们经常写信给人，但不包括经常写春联给人。[「書く」の ICM は我々がしばしば手紙を書いて人に与えることを含んでいるが，春節の対句を書いて人に与えることは含んでいない。]

しかしこれでは、“经常扔球给别人接”が“他扔我一只球”を生んで、“经常写信给人”が“\*他写我一封信”を生まないことの説明になっていない<sup>(36)</sup>。

ここで指摘しておかなければならないことは、張伯江(1999)が“队长扔我一块木头”の成立を二重目的語構文の自立性に求めたのに対して、朱德熙(1979)や沈家煊(2000)は“写信”“扔球”という行為自身をもつ認知モデルに求めた点である。換言すれば、前者は構文主導のトップダウン的成立であり、後者は行為主導のボトムアップ的成立である。英語では John kicked/threw Bill the ball. が成立して、構文パターン(認知スキーマ)が動作行為の個性(認知モデル)に対して優位性を見せているのであるが、標準語ではそれが逆転しているように思われる。

## 5. MAKE 型動詞

5.1. MAKE 型動詞——“刻[图章]，缝[衣服]，盖[房子]，煮[咖啡]，写[墓志铭]”等——の表す行為は事物の制作であり，そのまま授受行為に発展すべき事物の移動を引き起こす性質のものではない。しかし，制作という行為は製品や作品の「提供」を目的として行われることも珍しくはなく——製品や作品を「提供する」生業が数多く存在することを想起されたい——，しばしばその受益者を伴って現れる。そして，この受益者は同時にまた製品や作品の受領者／享受者であることが多く，前置詞“给”によって導かれ MAKE 型動詞の前に現れる。

- (1) 我给您老买块新料子，让宝儿娘给您缝件新大褂儿。(林希：丑末寅初)
- (2) 她拆拆缝缝给凤霞和有庆都做了件衣服，……。(余华：活着)
- (3) 与此同时，谭凌霄利用盖集体宿舍的名义给自己盖了一所私人住宅。(汪曾祺：皮凤三揸房子)
- (4) 严一行把小李让到沙发上，给他沏了一杯上好的龙井茶。(王蒙：最宝贵的)
- (5) 他还给我们画了一个详细的地图，大门在哪儿，保卫在哪儿，……(张平：十面埋伏)

MAKE 型動詞は，英語では He built his children a tree-house. や Sing me that song again! のように，授与型二重目的語構文を構成する。中国語においても，太原方言では“给”，上海語では“拨”と結合して授与型二重目的語構文を構成するが<sup>(37)</sup>，制作行為の受益者は同時に制作物の受領者／享受者であることが多いという現実が成立を促す動機として働いているのであろう。しかし標準語では僅かに以下のような構文において，“给”と結合した上で IO を従えることが可能となるだけである<sup>(38)</sup>。

- (6) 我将功补过，逮了这几个螃蟹烧给姐姐吃！（贾平凹：满月儿）
- (7) 她从集市上买了新鲜的肉蛋，借了别人的火油炉子，煮给他吃。(王安忆：小城之恋)
- (8) 你听没听过一首叫“不稀奇”的歌谣？妙极妙极，我唱给你听，……(尤凤伟：石门夜话)
- (9) 他们不明白这是广告，是画给人看的。(白连春：北京)

このような構文になると TAKE 型動詞と“给”の結合さえ可能になるが，朱德熙(1983)

はこの構文を〈V+N+給+N'+VP〉——例えば“唱一首歌儿给你听”——からNが空位になった結果であり、消えたNは“歌儿是唱( )给你听的”のように、しばしば“是……的”構文の主語として現れると述べている。つまり“V 给”は一つの述語ではなく、2つの述語として“连谓结构”を形成するという分析である<sup>(39)</sup>。朱德熙(1983)が指摘するように、この構文ではN' 即ちIOに続くVPを落とすことができず、“\*这几个螃蟹我烧给姐姐”や“\*这首歌儿我唱给你”は成立しない<sup>(40)</sup>。

5. 2. この朱德熙(1983)の観察には例外が存在する。比較されたい。

(10) 人们明白, 老丁这些举动, 是故意做给北杨庄看的。(贾大山: 正气歌)

(11) 生活里令人愉快的事情还是有的。只是不多。人不是每件事情都做给朋友、做给他喜欢的人的。(刘恒: 黑的雪)

(11)はIOに続く動詞句を伴わないにもかかわらず成立している。(10)は“做这些举动给北杨庄看”とパラフレーズできるが、(11)において同様なパラフレーズを行うのは困難である。(11)における制作物“事情”は主語の遂行する行為それ自体であり、提供されるサービスがまたその遂行(“做事情”)に他ならないからである。強いて(10)と同様なパラフレーズを行えば、“做事情给人做”という非文法的な表現となり、“事情”の空位は同じく“做给人做”という非文法的表現を生むのである。換言すれば、「NをVし(そのNを以って)N'にVP(というサービス)を提供する」という事象において、VとVPが同一の行為であるとき、VPは言語化されず、結果として(11)のような例外が許されるということである。

## 6. TAKE 型動詞

6. 1. TAKE 型動詞——“买, 要(索取), 娶, 领, 拿(领取, 得到), 偷, 抢, 借(借进), 收”等——が“给”と結合することができないのは“\*浮下”や“\*沉上”という結合が不可能であるのと同じことである。TAKE 型動詞は積極的に受領を表し、授与の“给”とは方向が相反する。TAKE 型動詞が伝える行為においては、事物の受領者は通常その行為の実施者であり、両者は文の主語の上に重なり合う。とりわけ“偷, 抢, 借”等はその傾向が顕著である。両者が重ならない場合、受領者はMAKE 型動詞の場合と同じく“给”に導かれ動詞の前に置かれる。この場合、“给”に代えて“替”や“为”を用いることが可能である。

(1) 我答应她, 挣出钱来, 给她买一个戒指。(李功达: 枯坐街头)

(2) 我爸爸给我要了一个单元。老人急着让我结婚。(王蒙: 风筝飘带)

(3) 名义是给儿子娶老婆, 实际给自己娶了个姘头。(刘庆邦: 屠妇老塘)

(4) 在他考取大学的时候, 她怕他变心, 她的父母就给他们“完了婚”——领了一张结婚证书。(戴厚英: 人啊, 人!)

英語ではTAKE 型動詞も授与型二重目的語構文を構成することが可能で、I bought her a new hat. などと言える。

6. 2. 第1章でも触れたように、TAKE 型動詞は「取得型」第I構文を構成することがあり、

DO の移動方向が「授与型」第 I 構文とは逆になる<sup>(41)</sup>。张国宪(2001, 2002)は方言および歴史資料の分析に基づき、第 I 構文の上に授与と取得が重なる現象について以下のような主張を展開している。

- [1] 第 I 構文は、本来、取得を表すための構文であったが、前置詞に導かれ文末に生起していた授与構文の IO が動詞の直後まで前移した結果、出自の異なる 2 つの構文が一つの構文として重なった。
- [2] 共時的には、第 I 構文の構文義として、授与と取得の両者を包含する“施动者有意识地使事物的所有权发生转移”〔行為者が自覚をもって事物の所有権の転移を生ぜしめる〕が考えられる<sup>(42)</sup>。

以下、以上 2 点を念頭に置きつつ取得型第 I 構文を考察する。先ずその実例を示そう。

- (5) 可是，你要想偷他一只“鸡”，给他割的地少算一亩，那可是打错了算盘。(邵振园：麦客)
- (6) 要是我，单为了听段音乐，也得在这儿站一会儿，买你一套煎饼。(蒋子龙：赤橙黄绿青蓝紫)
- (7) 他和另外四个痞子合伙偷了人家一头牛，杀了吃了。(汪曾祺：小芳)
- (8) 郝有才干了一件不大露脸的事，拿了人家五个羊蹄。(汪曾祺：讲用)
- (9) 怎么算怎么不对，多收了我 7 块钱！(刘恒：贫嘴张大民的幸福生活)
- (10) 是这样的……我借了他一笔钱……要还他……(毕淑敏：硕士今天答辩)

コーパスから判断する限り、取得型第 I 構文においても、IO は人称代名詞からなり、DO は数量詞を伴うという要求は、授与型第 I 構文と同じく強い。上に挙げた諸例と以下の諸例を比較されたい。以下の諸例では IO が数量詞を伴っていないため、DO に“的”が付加されている<sup>(43)</sup>。

- (11) 这金昌焕真是缺德，偷了文嫂的鸡，还借了文嫂的鼎罐来炖了。(汪曾祺：鸡毛)
- (12) 得得得，你甭对我宣传，我也不买你的东西。(王朔：过把瘾就死)
- (13) 说我拿了你们的东西？可你们拿了我的！你们拿走了我的人！我的……人。(李功达：枯坐街头)
- (14) 你们收了我的钱，为什么不给我办离婚？(汪曾祺：小芳)
- (15) 借了他的钱，他要是利用我去干坏事怎么办？(张抗抗：白罂粟)

さらに、取得という行為は、一般的に言って、意志・意図・計画をもって（“有意识地”）行なわれるものであると考えられるが、取得型第 I 構文はそれら事前の準備をむしろ捨象し去り、発生した事態を客観報道的に伝える傾向をもつようである<sup>(44)</sup>。(5) (6) のような未然の状況を言う例は少ない。卢建(2003)は授与と取得という行為それ自体の違いからこの間の事情を説明しようと試みている。即ち、授与と取得の相違を、行為者の DO に対する事前支配権の有無および行為の完遂に要する投入エネルギーの多寡に求め、取得においては行為者の側から事態の展開を能動的に制御するのが難しいことをもって（“施动者主观难以控制和驾驭”）、取得型第 I 構文が未然に馴染まない理由とした。確かに、取得の場合、行為者は DO に対する事前の支配権を有さない。よって、自らの支配下にある DO へ

の処置に過ぎない授与に比べると、取得はその実現がより困難であり、完遂のためにより多くのエネルギーの投入を必要とする。しかし現実の完遂が如何に困難であろうと、誰から何をどれだけ取得すると「計画する」ことの難易は、誰に何をどれだけ授与すると「計画する」ことの難易と同様である。さらに売買などにおいては、むしろ授与する（売る）ほうが取得する（買う）より難しいとさえ言える。よってシンタクスとしての問題は、その計画段階にある取得、即ち未然の取得が第Ⅰ構文によって表現されることが少ない（時にはできない）のはなぜかというふうに設定されなければならないだろう。

6. 3. 取得型第Ⅰ構文の動詞に後続する2つの成分を単一目的語であるとする分析も並行行われているが<sup>(45)</sup>、劣勢である。本稿はこの劣勢説にむしろ多くの光を当て分析を展開してみたい。

単一目的語説には、拠って立つ理論的根拠を問う前に、〈NP<sub>1</sub> + 数量詞 + NP<sub>2</sub>〉という形式が文中とりわけ目的語の位置における生産的な——ただし取得型第Ⅰ構文と同じく口語的な——所有関係の表現形式であるという現実的根拠をその背景にもつと思われる。例えば、

(16) 承各位请客，谢谢！谢谢！对不起，晚了一步，刚去送了我一位老朋友。（小楂：客中客）

(17) 小林，明天文化宫有舞会，这儿有你一张票。（湛容：减去十岁）

(18) 大哥，你救了我一条命啊！……大哥，你还救了我老婆一条命啊！（刘恒：贫嘴张大民的幸福生活）

(19) 张大民抓住民警一条胳膊，哈着满嘴酒气，凑近了往人家脸上喷，……（同上）

(20) 报上发了消息，一家画刊还选了他两幅画。（汪曾祺：岁寒三友）

(21) 他……又从桌上取村长一支烟细抽，有滋有味，……（阎连科：耙耧山脉）

〈NP<sub>1</sub> + 数量詞 + NP<sub>2</sub>〉において、句頭のNP<sub>1</sub>と後続の〈数量詞 + NP<sub>2</sub>〉が“的”を必要とせず一構造体を形成する現象の解釈については、陆丙甫(2003)を参照されたい。(21)の場合、“取村长一支烟”だけでは二重目的語なのか単一目的語なのか判定できないが、“村长”の前に起点を表す“从桌上”が存在していること、“村长”がすでに死亡し棺桶に収まっていること、即ちもはやなんらかの働きかけの対象とはなりえない状態にあることを考慮すれば、“村长一支烟”を所有構造をした単一目的語であると判定するのが自然であろう。

6. 4. 取得型第Ⅰ構文は多くの文献において二重目的語構文として分析されている。しかし、それが如何なる意味の二重目的語構文であるかについては、まだ定論は得られていないように思われる。この構文の性格づけを行うことは、IOの果たす役割をどう規定するかにほぼ等しい。構文論的にどういう条件が整備され、意味論的にどういう欲求が芽生えたとき、取得型第Ⅰ構文がうまれるのか。そして、その中でIOはどのように位置づけられるのだろうか。

6. 4. 1. 张国宪(2001, 2002)は「与奪未指定」の動詞が第Ⅰ構文に入ると自動的に取得の意味を獲得する点に着目する。例えば“拿”である。“拿”の意味“用手或用其他方式抓住、



搬動”〔手あるいはその他の方式を用いてつかむ、動かす〕は KICK 型へも向かえば、TAKE 型へも向かい得る<sup>(46)</sup>。

(22) 他找吴道永议了议，他把陈志强的信拿给了吴道永。(KICK 型；王蒙：风息浪止)

(23) 刘尚文从一家小铺里拿了一瓶酒，又去酱味房要了一包猪头肉，……(TAKE 型；林希：丑末寅初)

しかし第 I 構文に入ると“拿”は TAKE 型動詞としてのみ振る舞い，“李师傅拿了我两把钳子”で“两把钳子”は，“李师傅”から“我”にではなく，“我”から“李师傅”へと移動する<sup>(47)</sup>。張氏は豊富な方言資料や歴史資料を援用しつつこの現象を分析して、与奪未指定の動詞が第 I 構文に入ると自動的に〔+奪〕が付与されるのは、第 I 構文が本質的に取得構文であることの証しであると主張する。しかしなぜそうなるのか、即ち〈V+NP<sub>1</sub>+ (数量詞+ )NP<sub>2</sub>〉という語連鎖が、なぜ授与ではなく取得と優先的にリンクするのかという一歩踏み込んだ説明はなされていない。

張氏は取得型第 I 構文の IO を“奪事”と呼び<sup>(48)</sup>、IO に強い“受事特性”を認める。その根拠の一つが、IO を主語に立てる受動文の成立である。例えば、

张三抢了李四一个钱包。→ 李四被张三抢了一个钱包。

しかしこのような受動文は、IO が〈V+DO〉により「受損」に陥る場合に限ってのみ成立するもので、取得型第 I 構文は対応する受動文をもつと一般的に主張できるまでには至らない。IO を“奪事”と呼ぶことは IO を〈V+DO〉の目的語と見ること、即ち IO を〈V+DO〉の影響を被むる存在として理解することに繋がる<sup>(49)</sup>。この解釈は、李临定(1986)が挙げる IO と DO の間に動量表現が割って入る現象（“你已经收过我两回钱了，怎么又来了！”）や<sup>(50)</sup>、3. 2 で紹介した“打了他一个嘴巴”“没捅过她一个手指头”のような表現とリンクし得る利点を有するが、“把”構文とリンクしないという難点がある。例えば“\*把人家偷了一头牛”や“\*把我收了 7 块钱”は成立しない。

6. 4. 2. 古川(2001)は授与型第 I 構文を出現文に、取得型第 I 構文を消失文に平行させ、授与型は IO の場における DO の出現を伝え、取得型は IO の場における DO の消失を伝えるものであると分析する。この解釈にとって最も有力な根拠は、存現文の所謂“存現宾语”に求められる典型的な形式構成と第 I 構文の DO に求められる典型的な形式構成が平行することであるが、より端的には、以下のような授与型第 I 構文に平行する出現文の存在がある。

(24) 从那道上走进屋里一个汉子，横在了那手铐和孩娃中间，……。 (阎连科：耙耧山脉)

(25) 这时，急匆匆走进黑大门一个男人，个儿不高，挺胖。(雪原：狼鼻子)

これらは標準語文法では“(有)一个汉子从那道上走进屋里”，“(有)一个男人急匆匆走进黑大门(去)”と表現される<sup>(51)</sup>。

主語を X，IO を Y，DO を Z と置けば、古川(2001)が描く第 I 構文の概念構造を以下のように表現することができる。

授与型 X の行為により Z が Y の領域に出現する。

取得型 X の行為により Z が Y の領域から消失する。

古川(2001)の観察は抽象度が他のどの説よりも高く、第Ⅰ構文におけるIOの意味役割を取得型か授与型かの違いを越えて、一種の領域(domain)と規定しうる可能性をもつが<sup>(52)</sup>、今後なお张国宪(2001, 2002)などが指摘する言語現象との整合性を高めてゆく必要がある。上述したように、張氏は与奪未指定の動詞が第Ⅰ構文に入ると自動的に[+奪]が付与される現象に対して、第Ⅰ構文の本義が取得であることに基づくという見解を示している。しかし古川(2001)に拠るならば、与奪未指定の動詞に対して付与される意味はむしろ[+与]でなければならない。なぜなら、存現文における出現と消失の比較において優勢なのは、言うまでもなく出現であり、出現は授与と平行するからである。

6.4.3.  $\langle NP_1 + \text{数量詞} + NP_2 \rangle$  は一構造体を形成し得るという6.3の観察を出発点として、IOをDOの限定語とし得る可能性を検討してみよう。

汪国胜(2000)は、大冶方言の第Ⅰ構文において、DOを限定する数量詞の数が“一”である場合、授与型ではよく脱落するが、取得型ではそれが保持されると指摘している。この事実は、授与型においては $\langle \text{数量詞} + NP_2 \rangle$ が通常の目的語としてVの支配を受けており、取得型においては $\langle NP_1 + \text{数量詞} + NP_2 \rangle$ が一つの構造体を形成している可能性を示唆する。既述のように、 $\langle NP_1 + \text{数量詞} + NP_2 \rangle$ は一つの構造体として目的語の位置に生起することが可能であり、数詞は構造体を形成する上で必須の成分である。例えば“从桌上取村长一支烟”を“\*从桌上取村长支烟”とすることはできない。

张国宪(2001, 2002)の主張に対し、上で二重目的語構造(典型的には $\langle V + NP_1 + \text{数量詞} + NP_2 \rangle$ )がなぜ授与ではなく取得と優先的にリンクするのかという問題を提起したが、 $\langle V + NP_1 + \text{数量詞} + NP_2 \rangle$ において授与の読み——換言すれば、 $NP_1$ の $\langle \text{数量詞} + NP_2 \rangle$ に対する「新規の所有」——を可能にするには、両者の間に成立しうる文法関係——「既存の所有」を最有力とする——を先ずキャンセルする必要がある。取得の読みにはその必要がない。取得の読みは所有関係のデフォルト値である「事前所有」をそのまま利用できるが、授与の読みにはデフォルト値の存在が逆に障害となるということである。ここに $\langle V + NP_1 + \text{数量詞} + NP_2 \rangle$ が授与ではなく取得と優先的にリンクする理由を見い出せるかも知れない。そしてこのリンクは強い[+与]動詞によってのみ断ち切ることが可能なのであり<sup>(53)</sup>、それほどでもない動詞にとっては、所有関係を事後に設定できる未然の状況が求められる。“拿了我两把钳子”などでは“拿”が与奪未指定、即ち“我”と“两把钳子”の間に新たな所有関係を生ぜしめる本来の能力が備わっていないため、両者の間の「事前所有」をキャンセルすることができず、結果として取得の読みになってしまうことが考えられる。

所有関係のデフォルト値が「事前所有」であることに疑問の余地はなく、例えば「私の自動車」と言えば、「私がすでに所有している自動車」という理解が「私が近未来に所有する可能性のある自動車」という理解に比べはるかに優勢である。ある時、自動車を買う算段をしている女性が「わたしの自動車まだなに色にするかも決めていないのよね」と言うのを聞いて、非常に新鮮な気がしたことを覚えている。この文は中国語に直訳することが可能である。“我的汽车呀，连买什么颜色的都还没决定呢！”となるが、“的”のような

文法的手段を使えば、話者は現実に対してさまざまに脚色を施すことができる。逆に言えば、最も自然に現実を反映する表現形式は使用する文法的手段を最小限に抑えることができるということである。肯定・能動・順接など所謂無標概念の表出は、否定・受動・逆接など有標概念の表出より使用部品が少なくてすむことを想起されたい。

以上のように考えれば、取得型第Ⅰ構文を成立させる力を素直に「動目」という構造に帰すことが可能になる。〈V+NP<sub>1</sub>+数量詞+NP<sub>2</sub>〉という「動目」構造が〈NP<sub>1</sub>+数量詞+NP<sub>2</sub>〉という名詞句の成立を支え、全体としても単純な「動目」構造を形成していると考えerわけである。例えば“偷了人家一头牛”において、動詞“偷”は“人家”をいきなり目的語として支配することはできない<sup>(54)</sup>。“偷”の支配対象は“一头牛”であり、“人家”はその“一头牛”と関係結んでいる。換言すれば、“一头牛”の仲介を得てようやく“偷”と“人家”の間に関係が生じる。“偷了人家一头牛”を如何なる構造体として認識するか、研究者は長らく腐心して来たのであるが、“人家一头牛”を一構造体であると見なすことが可能ならば、事態は極めて単純なものになる<sup>(55)</sup>。

6. 5. 以上、取得型第Ⅰ構文に対して様々な分析を行なってみたが、使用頻度の低さも手伝い、これが一体如何なる意味をもつ構文なのか、今一つ分明としない<sup>(56)</sup>。例えば次の(26a)は成立するが、(26b)は成立しない。どうやら、取得型第Ⅰ構文はDOの帰着点が文の主語(行為者)に指定されているようなのである。

(26)a. 我从老王那儿给我妈买了一把旧椅子。

b. <sup>??</sup>我给我妈买了老王一把旧椅子。

取得型第Ⅰ構文、例えば“老王买了我一把旧椅子”は、しばしば“老王从我这儿买了一把旧椅子”あるいは“老王买了我的一把旧椅子”とパラフレーズされる<sup>(57)</sup>。パラフレーズの前後を比較すれば、取得型第Ⅰ構文におけるIOは際立ち度(saliency)が落ち、背景化していることが感じ取れよう。「起点」からの背景化に関しては、“坐了三天三夜(的)火车”や“你还生我(的)气吗?”のように、「動目」がある種の文成分を「目」の構造的修飾語として取り込む現象が連想される。「所有」からの背景化に関しては、数量詞に先立つ所有者が“的”を伴うと強い対比性を帯びて前景化するため<sup>(58)</sup>、文脈から所有者に対する背景化要求が生じれば、“的”を脱落せしめるという理解である<sup>(59)</sup>。この構文において、IOとDOは“領属関係”にあるが、IOに“的”(相当の成分)を加えることは必ずしも可能ではないと報告されることがあることに留意したい。背景化させて“的”を加えるというのは明らかな矛盾となる。以下の2例における“的”の使用不使用を比較されたい。

(27) 这儿有他一个邮册，等他回来请转交给他。(张平：红雪)

(28) 下午活动时间，才发现了收发室的信栏里竟放着我的一封信。(张平：红雪)

(27)で“他”は後景化し、前景化しているのは“一个邮册”である。後続するフレーズが“一个邮册”に対する叙述であることに注意されたい。(28)はその逆で、“我”が前景化し、後続する“一封信”は後景化している。“信栏”に“信”があったところで“竟”(なんと)と驚くはずはない。“竟”はそこに“我”宛ての“信”を見つけたことに端を発する心理

活動である。IO の背景化という分析は、3.3において指摘した、IOに「強い」形式（固有名詞や不定名詞句）が生じにくいことの説明にもなる。

## 7. MAIL 型動詞

7.1. “写信”や“打电话”という行為のまったき完成には受領者（受信者）の存在が必須である。そのため、意味的には“写信”や“打电话”を[+与]という意味特徴をもつ GIVE 型行為であるとみなすことが可能である。朱德熙(1979)は“我写给他好几封信”と“\*我写给他一副春联”を例に取り、その成否の理由を次のように説明する。

当“写”跟“信”组合的时候，预先假定（presuppose）有“受者”（收信人）一方存在。此时“写”就取得了给予的意义。〔“写”が“信”と掛け合わされると、予見的に「受領者」（受取人）の存在を前提とする。そこで“写”は「授与」の意味を獲得することになる。〕

受領者が予見的に存在することが授与義の獲得につながり、“给”との結合を、ひいては二重目的語構文の成立を可能にしたと言うのである。“找钱”（つり金を捜す）や“撕收据”（レシートを破りとる）が“给”と結合して二重目的語を取る場合があるが、“写信”と同じ現象であろう。

(1) 她找给我一桌的毛票和硬币。(陈建功：鬚毛)

(2) 等司机停稳了车，从驾驶室下来，他就撕给他一张停车费的收据。(陈建功：耍乐)

しかし MAIL 型動詞は、文法的には MAKE 型に近く、どの初級教材にも“给他写信”や“给他打电话”という表現形式が紹介されている。例えば、

(3) 老张果然痛快，说：“……，我给他写一封信，你找他，看他能不能给办！”小林又大着胆子说：“最好老领导再给他打一个电话！”(刘震云：一地鸡毛)

コーパスから見ると、”写给””打给”の分布は IO のみを従えた構文に限られる。

(4) 这封信<sub>DO</sub>是你五月二十六日写给王少怀<sub>IO</sub>的！(李迪：傍晚敲门的女人)

(5) 校长最后一个电话<sub>DO</sub>是打给司机<sub>IO</sub>的，……(路也：有个耗子名叫点点)

(6) 最后一封信<sub>DO</sub>写给同宿舍的一个女生<sub>IO</sub>，她留在学校读书。(杨镰：青春只有一次)

(7) 别这么刻薄，C，医生今天刚允许我下床，第一个电话<sub>DO</sub>就打给了你<sub>IO</sub>。(李平：C的逻辑)

朱德熙(1979)には“他写给校长一封信”，Hashimoto(1991)には“护士打给大夫一个电话”，顾阳(1999)には“我打给他一个电话”という例が見られる。しかし李临定(1986)も指摘するように、コーパスに同様の実例を発見することは困難である<sup>(60)</sup>。施关淦(1981：35-36)は次のように述べる。

“我写给他一封信”似乎也不是地道的北京人的说法，那些“老北京”要表示这个句子所表达的意思，一般采用 S<sub>3</sub>（“我给他写一封信”），有时也采用 S<sub>2</sub> 句式（“我写一封信给他”）。但不管怎么讲，这种说法已进入书面语却是个事实。这可能是受某种外语或某种方言的影响所致，好像也已经约定俗成，光从语义、逻辑上是难以解释清楚的。〔“我写给他一封信”は生粋の北京語の表現ではないようだ。この文が伝えるの

と同じ意味を表そうとする場合、「老北京」たちは普通  $S_3$  を用い（“我给他写一封信”）、時に  $S_2$  を使うこともある（“我写一封信给他”）。しかし“我写给他一封信”がすでに文章語の中に入り込んでいることも、また確かな事実であり、おそらくどこかの外国語の影響、あるいは方言の影響によるものと思われるが、もうすでに定着してしまっている。意味や論理の上からだけでは、明快な説明は難しい。〕（括弧内引用者）

この指摘と実際の使用状況に照らせば、上の例(4)などは“写给王少怀一封信”からではなく、むしろ“写一封信给王少怀”をベースにして考えるべきかも知れない<sup>(61)</sup>。用例数が少ない上に、DO が裸の形で使われる傾向が強いが、“给+IO”後置型の構文は標準語のコーパスにも見出すことができる。

(8) 她痛苦极了，曾写过一封长信给梁晓，但梁晓没有看到，信给扣下了。（吕雷：火红的云霞）

(9) 李德树到北京来了！他要小芳跟他回去。他先找到小华，小华打了个电话给小芳。（汪曾祺：小芳）

7.2. “送”は典型的な GIVE 型動詞として“贈送”（贈呈する）という意味を表す一方で、“把东西运去或拿去给人”（事物を運搬、あるいは持参して人に与える）という運搬的授受行為も表す。そして後者の場合、“送”は運搬の意味が中核となって二項動詞化し、受領者を IO として支配することはなくなる。受領者は受益者として設定され、“写信”タイプの行為と同様、“给”に導かれて動詞の前に置かれる。例えば、

(10) 坐牢可没人给你送饭！（谌容：太子村的秘密）

(11) 医院通知了剧团，剧团的办公室主任上他家给他送了一百块钱。（汪曾祺：云致秋行状）

(12) 几个不值班的兵赶海回来，给厨房送了一大堆石板鱼海螺什么的，……（陆颖墨：鱼儿·潮声）

“我去送他一本书”と言うよりも“我去给他送一本书去”と言うほうが自然であることに注意されたい。“给你送礼”という表現はこの運搬的授受行為から拡張してきたものと考えられる。「贈る」ではなく「お届けする」と理解すべきものである。

(13) 我说，现在有人开始给你送礼了吗？（成一：历史试点）

(14) 你当官了？也有人给你送东西！（刘震云：一地鸡毛）

“送外号”の“送”は、下例(15a)のように典型的な GIVE 型動詞としての性格を保持する一方で、(16)のように MAKE 型動詞ふうの振る舞いを見せることがある。

(15)a. 人们就送了他一个外号，叫“抹脖子大哥”。（毕淑敏：硕士今天答辩）

b. 同屋的那位中文系夜游神送给他一个外号，这外号很长：“二十年目睹之怪现状”。（汪曾祺：鸡毛）

(16) 人们给他送了个外号叫“使不得”。（赵树理：三里湾）<sup>(62)</sup>

この MAKE 型動詞ふうの振る舞いは“起外号”の影響によって発生したものと考えるべきだろう。比較されたい。

(17) 人们背地里给他起了个外号：“不说不说百十句”。(霍达：秦台夜月)

7. 3. “寄[信], 汇[款], 发[信号]”なども受領者が想定されるが、張伯江(1999)が“远程给予类”(遠距離授与タイプ)と呼ぶごとく、受領の実現に遠距離移動を含むため、“写信”型動詞の文法に右へ倣えをすることが多い。即ち単独で二重目的語構文を形成することは不可能であり<sup>(63)</sup>、たとえ“給”を伴ったとしても二重目的語文を形成することは多くないということである。比較されたい。

(18)a. \*小李寄了他一包醉枣。～ b. 小李寄给他一包醉枣。

(19)a. 姐姐给爸爸寄来一包醉枣。～ b. \*姐姐寄给爸爸一包醉枣来。

(18a)の不成立は“寄”が本来的な授与動詞ではないことを示している。(19a)では“来”の付加により、授与の意味よりも移動の意味が前景化している。(19b)は“寄给爸爸”という帰着重視の表現と“来”という移動重視の表現が衝突した結果、不成立となっている。

(20) 有一位驻守在高寒山区的边防战士寄给了她一听午餐肉罐头和十五块钱, ……。(王蒙：风息浪止)

(21) 他把奖金给乡下的母亲和哥哥寄了一部分。(刘恒：白涡)

(20)では“寄”が“给”を伴った上で二重目的語構文を形成しているが、2つの目的語が人称代名詞と数量詞を伴った名詞句という構成である点に注意されたい<sup>(64)</sup>。(21)の“把奖金给乡下的母亲和哥哥寄了一部分”を“寄给乡下的母亲和哥哥一部分奖金”と二重目的語構文にしても、文法的に不都合はないはずである。それが採用されない理由は、IOとなる“乡下的母亲和哥哥”が「重い」からであろう。次の例ではこの点が如実に反映している。

(22) 我……去邮局给一个交钱即可注册入学、不须考试的函授大学汇了报名款和一年的学费。(王朔：一半是海水，一半是火焰)

(21)や(22)が採用した方法は、一つの述詞(動詞および前置詞)に一つの名詞句の面倒を見させるというもので([把+奖金][给+乡下的母亲和哥哥][寄+一部分])、これは構造形成の観点から見ても、情報処理の観点から見ても「軽く」、短期記憶に負担がかからない。英語のHeavy NP Shiftを思わせる<sup>(65)</sup>。比較されたい。

(23)a. Fred gave [the girl he had met at the party the night before][the candy].

b. Fred gave [the candy] to [the girl he had met at the party the night before].

(23a)の造りはawkwardと評され、情報処理における記憶負担軽減の観点から(23b)を採用することが求められる。

## 8. おわりに

8. 1. 最後に本稿の調査を山西省太原方言、湖北省大冶方言、香港粵方言の状況に照らし合わせ、授与構文に関する標準語の特徴を炙り出してみよう。データはそれぞれ沈明(2002)、汪国胜(2000)、Hashimoto(1993)に基づく。取得型第I構文は除く。下表をご覧いただきたい。表中IOはIOが単独で生起する場合と“给”(および相当語)に導かれる場合をともに含む。

|      | IO + V + DO | V + IO + DO | V + DO + IO |
|------|-------------|-------------|-------------|
| 標準語  | +           | +           | ±           |
| 太原方言 | —           | +           | —           |
| 大冶方言 | —           | ±           | +           |
| 粵方言  | —           | —           | +           |

太原方言では“他送给我一瓶好酒”に代表される第Ⅱ構文が広範に用いられ、“炒[菜]”のような MAKE 型動詞や“偷”のような TAKE 型動詞まで第Ⅱ構文に現れる。例えば、

- (1) 我炒给他一盘子鸡蛋。(彼に卵を一皿炒って与えた)  
 (2) 他偷给小王一份答案。(王に〔他所から〕答案を一部盗んで与えた)

また、太原方言には標準語に見られる第Ⅰ構文が存在せず(動詞が“給”の場合を例外とする)、“他送给我一瓶好酒”とは言えても“\*他送我一瓶好酒”とは言えない。徹底的な第Ⅱ構文依存型の方言であり、第Ⅲ構文における“给”は前置詞として、“为”“替”の意味しか表さない。

大冶方言の場合、授与構文として最も活躍するのは IO を文末に置く構文である。その場合、IO は標準語の“给”に相当する前置詞(“了[le<sup>3</sup>]”)によって導かれることもあれば、単独で現れることもある。下例の“了[le<sup>3</sup>]”は省略することが可能である。

- (3) 你送碗芋头圆子了你伯, 渠总个喜个带个东西。(你送给你伯伯一碗芋头圆子, 他非常喜欢这个东西)

〈V + IO + DO〉の第Ⅰ構文もかなり普及しているが、それは標準語からの借用形式である。また、大冶方言は“他送给我一瓶好酒”に代表される第Ⅱ構文をもたず、“送给”に相当する〈V 了[le<sup>3</sup>]〉は、“把”構文、主題化文など DO が前置される場合に限って見られる。

- (4) 我送伞渠。～我把伞送了渠。～伞我送了渠。

第Ⅲ構文において受領者を導く場合は“了[le<sup>3</sup>]”ではなく、“给”を用いる。

- (5) 学校给玉梅奖了一部复读机。

粵方言には標準語の第Ⅰ構文、第Ⅱ構文、第Ⅲ構文いずれも存在せず、IO は単独で或いは“给”相当成分に導かれて文末に現れる<sup>(66)</sup>。既述のように、標準語でも IO が“给”に導かれて文末に現われることがあるが、決して活躍する構文ではない。逆に、粵方言においては〈V + DO + IO〉のみで授与表現がカバーされている。

8. 2. IO の出現位置という視点から標準語と他の3方言を比較すれば、標準語は左寄りの傾向が極めて顕著であることがわかる。この傾向は時に既存の用法記述の枠をも超えて見られる。例えば、

- (6) a. 吴新刚给他递了一个手绢, 他稍稍地把脸上擦了擦。(张平: 抉择)  
       b. 杨昌明给发言的人递了一个条子。(谌容: 真真假假)  
 (7) 会议发给她一本纪念册, 一个人造革软夹, 一叠活页纸, 一管英雄钢笔; 笔上刻着五讲四美字样和她的名字。大会还给她发了一枚绿底白花的纪念章。(王蒙: 风息)

浪止)

朱德熙(1979)の分類に従えば, “递” も “发” も GIVE 型動詞であり<sup>(67)</sup>, “给” に導かれて動詞の前に置かれる成分の意味役割は受益者であって受領者ではない。张伯江(1999)も“小刘给我递了一块橡皮”の成立に疑問符を打っている。しかし上例(6)(7)において“给”に導かれた成分は明らかに受領者である。この現象は標準語という統合型言語の文法記述の困難さを物語ると同時に, GIVE 型動詞がプロトタイプ範疇であり, 周辺的なメンバーを含むことを例示しているが, 下例を加味するとさらに一步突っ込んだ臆測が許されよう。

(8) “睡觉去。送给你老人家一包洋火!” 他放在桌子上一包火柴, …… (老舍: 骆驼祥子)

“放在桌子上一包火柴”は標準語の文法ではない。標準語は“在桌子上放了一包火柴”と表す<sup>(68)</sup>。終点が動詞の左方にまで移動しているのである。“放在桌子上一包火柴”の“在桌子上”は時に“放了一包火柴在桌子上”の如く文末に置かれることもある。

(9) 老人家……放了一碗凉水在它们的房间里, …… (梁晓声: 翟子卿)

(10) 慧如去深圳前放了一台摩托车在院子里, …… (王静怡: 静如人生)

よって, “在+终点”も“给+IO”と同じく3つの出現可能位置を有しながら, 標準語では最も左方に位置するのである。ここから推して, “送一包洋火给你老人家”から“送给你老人家一包洋火”へ, そして“给你老人家送一包洋火”へという変化が発生しない保証はどこにもない。理論上は成立する“写给他一封信”や“介绍给他一个人”の実例が観察されず, 実際には“给他写一封信”, “给他介绍一个人”として実現していることを今一度想起されたい。

\* 本稿は拙稿〈“普通話”の授与構文〉(『中国語普通話文法と方言文法の多様性と普遍性に関する類型論的・認知言語学的研究』, 平成13-16年度科学研究費補助金基盤研究B(1)研究成果報告書, 課題番号: 13410129, 代表: 古川裕, 2005年3月)に加筆訂正を加えたものである。

(Endnotes)

- 1 杉村(2001)に簡単な指摘がある。
- 2 杉村(2000)参照。
- 3 杉村(2000)参照。
- 4 徐星は1956年北京に生まれ, この小説の発表時29歳, 全聚徳の“清洁工”だった。
- 5 コーパスの大きさは1070万字超で, 主として1970年代後半以降に出版された, 北方作家の手になる文学作品から成るが, 巴金, 老舍, 曹禺, 赵树理等の作品を一部含む。
- 6 方言文法調査の手引書である Hashimoto(1993)は, 二重目的語構文の研究に有意な動詞分類として以下の5類を挙げているが, ①③⑤は語彙メンバーの選定に難が認められる。⑤を独立させたのはIOを文末に置く構文が成立しない点を考慮してのことであろう。例えば“\*我问了一句话给他”や“\*老师回答一个问题给我”(张伯江1999)は成立しない。吕叔湘(1983: 4. 3)は, 文言においても“教”や“示”のような動詞は〈V+DO+于+IO〉という構文を構成しないと指摘している。



- ① the “give” type (送, 教, 踢……); ② the “pseudo-give” type (写[信], 寄, 介绍……);  
 ③ the “deprive” type (抢, 买, 拿……); ④ the “make” type (沏, 刻, 炒, 打[毛衣]……);  
 ⑤ the “pseudo-acquire” type (问, 回答, 罚……)
- 7 朱德熙(1979)は北京語には“给给”という形式が存在しないが、方言にはそれが観察されると述べ(例えば山西文水方言), 北京語の第Ⅰ構文に述語として現れる“给”が“给给”の緊縮形である可能性を示唆している。“给”の二重目的語を従える能力が他を圧して高いことを考え合わせれば、この推測は音声的な根拠のみならず、文法的な根拠も有すると言えよう。
- 8 詳しくは施美淦(1981)を参照。Hashimoto(1993)は, “it is not quite correct to say that we have a case of structural homonymity here. The form NP<sub>1</sub>+给+NP<sub>2</sub>+VP always marks the Benefactive construction; it may also be a form of the Double-Object Construction if certain types of verbs occur.” [ここで構造的な同形異義が生じているとみなすことは必ずしも正しくない。NP<sub>1</sub>+给+NP<sub>2</sub>+VP という形式は常に受益構文なのであるが、ある種の動詞がそこに生じた場合、それはまた二重目的語の構造でもありえるのである]と述べ、沈家煊(1999: 101)は第Ⅲ構文を次のように定義する。“整体意义是‘对某受惠目标发生某动作’。至于动作的参与者是否是事物转移的终点, 句式本身并没有规定, 而是由其他因素决定的。”[構文全体の意味は「ある受益者に対しある行為が行なわれる」である。行為の参与者が事物の移動の終点であるか否か、構文はそれを規定しておらず、それは他の要素によって決まる。]“给”に導かれた成分が受益者であり受領者ではないことの根拠として、顾阳(1999: 74)は“我给你买了一本书”に“明天再拿来”を続けられることを挙げている。“你”が受領者であるなら、行為完了時に“书”は“你”への移動を完了していなければならないという主張であろう。
- 9 沈明(2002)によると、太原方言では“小张借给我一本书”と“小张借了一本书给我/小张给我借了一本书”の意味は異なり、前者は“小张把自己的书借给了我”, 後者は“小张从别处借了一本书给了我”という意味を表す。北京語はDOの所属に関するこの区別に無頓着であるが、本稿が第Ⅲ・第Ⅳ構文に言及する場合は第Ⅱ構文に準じる事象を表す場合に限られる。
- 10 動詞には「結果に関わる認知フレーム」も考えられる。例えば“少说两句吧你, 不会当哑吧把你卖了。”(叶广岑: 全家福)や“能吃的都吃了, 可卖的都卖了。”(戴厚英: 人啊, 人!)のような場合、“卖”の認知フレームに受領者が関わってくることは少ない。
- 11 情報・知識・技術などの伝授を表す“教、告诉”などもGIVE型動詞に含まれ、時に“给”を伴うことがあるが、“告诉给”はIOのみを従え、二重目的語を構成することはない。  
 大姐就教了马太太一个吃法, …… ~ 他没教给你几手高招吗?  
 我告诉你一个最好的消息。~ 您放心, 我明天把什么都告诉给您!  
 “问”と“回答”も二重目的語構文を形成するが(“我问了他一句话”, “我要你回答我一个问题”), “给”と結合することはない。“问”は疑問を提出してIOから知識・情報を取得する行為であり、IOに対してそれらを提供する行為ではない。“我问了一句话给他”と言えないのはその反映であろう。“问”に“向(某方面或某人要东西): 我~他借两本书”(现代汉语词典)という拡張義があることを想起されたい。“回答”は提起された問いに応じることを言い、知識や情報の伝達自体は“教、告诉、说、写”等の具体的な行為によって担われる。よって“回答”も“给”との結合は難しい。张伯江(1999)には“老师答复给学生一个问题”という例が見えるが、“答复”は通常“老师给学生(的问题)一个明确的答复”のように使われる。徐枢(1985: 70-82)参照。
- 12 動詞にもよるが、“给”が要求される状況として「已然」が挙げられる。例えば“借”は「貸す」と「借りる」という方向の相反する行為を表し、“张三借李四一本书”は「李四に貸す」とも「李四から借りる」とも理解できる。しかし周长银(2000)には“借”が“了”を伴うとほとんど「借りる」という意味しか表さないという指摘が見える。この指摘に基づけば、“借给了”の“给”は落とせない。落とすと「貸した」が「借りた」になる。寧波方言ではこの対立が定着しており、林璋他(2002)に拠ると、“借了”に相当する“借勒”は「借りた」という意味しか表さず、「貸した」は“借拔”——“借给”に相当——としなければならない。標準語においても、コーパスに見る限り、「IOは第一人称、事態は未然」という場合を除き(例えば“借我一个收音机听听”), 二重目的語

構文に現れた“借”は、ほとんどの場合“了”の有無を問わず「借りる」の意味で使われている。ネイティブの内省に基づく判断は卢建(2003)参照。下は「貸した」を表す珍しい例である。

后来王教授搬家，四眼硬拉我去新居粉刷墙壁，王老头为表鼓励，借了他一套那种本子。(李  
晓：继续操练)

- 13 ここで行為の全過程(“完整过程”)を表すと言うのは、GIVE型動詞はもともと自らの意味の中に“給”の意味を包含しているけれども、〈V 給〉それを実際に形式化してみせた形式であるという意味である。
- 14 “送、借(借出)、还”が意味するのはDOがIOの手に渡るといことのみであって、それが具体的にどのような動作によって実現するかを述べてはいない。その意味において典型的な授与動詞なのである。
- 15 このような見解をもつ研究者は第Ⅱ構文、第Ⅳ構文における“給”とその目的語を“介宾补语”と呼ぶことがある。しかし彼らも〈V 給〉がすでに複合語化していることに気づいている。複合語化の根拠の1つは、Vと“給”の間に選択制限があり、標準語では“給”はDOのIOへの移動を引き起こす動詞とのみ結合する。もう1つの根拠は〈V 給〉が“了”等を伴うとき、“了”等はVではなく〈V 給〉に付属することである(“\*V+了+給+IO ~ V+給+了+IO”)。贝罗贝(1986)は、歴史言語学の立場から、前漢における〈V+与/予/遗〉—〈V 給〉と同タイプの表現形式—の出現に関し、Vの複音節化にその動機を求めている。これは〈V+与/予/遗〉がGIVE型動詞から始まったことと合わせ留意されてよい指摘であるが、张国宪(2002)に贝罗贝(1986)への反論が見られる。
- 16 太原方言は特異で、第Ⅱ構文のみ成立し、第Ⅰ構文も第Ⅳ構文も成立しない(“\*他送我一瓶好酒 ~ 他送给我一瓶好酒 ~ \*他送一瓶好酒给我”)。詳しくは沈明(2002)参照。
- 17 顾阳(1999)、邓思颖(2003)など参照。
- 18 “北京话”を含む“北方话”の口語では“递张华光一本儿书”のような表現も許容されるようであるが、まだ調査不十分である。例えば、中川(1973)が“我给李四一本书”は「まったく変であり」、「我给他一本书」と「しなくてはならない」と述べる一方で、张伯江(1999)には“他捐图书馆一套善本书”“我交画廊一幅画”のような、普通名詞がIOに充当した用例が見える。筆者の調査に基づけば、中川(1973)の指摘は動詞を“給”や“借”以外のものに換えるべきであり、张伯江(1999)の例も標準語の文法としてはやはり“给”を付加したい。“给”は二重目的語を従える能力が極めて強く、以下のような例が観察された。

这好比给一个在沙漠中的旅人<sub>IO</sub>一杯水<sub>DO</sub>和给一个在游泳池中的人<sub>IO</sub>一杯水<sub>DO</sub>，意义肯定不同。(毕淑敏：原始股)

“必杀令”的另一层意思，就是再给包括沈祥福在内的国奥某些人员<sub>IO</sub>最后一次机会<sub>DO</sub>。(时代商报)

以下の例はIOが数量詞を帯びた普通名詞、DOが裸の単音節名詞という、きわめて稀な構成になっている。

他干嘛给一个无赖<sub>IO</sub>钱<sub>DO</sub>呢，敲诈？(康道宁：人狮)

但しこの“一个无赖”は意味的に「不定」名詞句ではなく、特定の人物を分析的に表現した「定」名詞句である。杉村(2002)参照。

陈建民(1986: 88)には“‘给’在北京口语里常常脱落”という指摘がある。“北京口语”と限定されている点が注目される。筆者のインフォーマントの一人(北京人、大学卒)も“给”を使わないと“土话”“俗话”の感じがすると述べる。陈建民(1986: 89)はまた、述語が二音節動詞の場合はたとえIOが固有名詞であっても“给”の付加に対する要求度は低く、“给”を付加すると“听起来反而不大习惯”と述べる。“福利委员会补助李晓燕一件棉衣”のような例であるが、こんなところにまで音節の問題が絡んでくるところに、中国語のシンタクスの捉え難さがある。以下は二音節動詞が“给”を帯びた例である。

音乐学院附中分配给她一个一居室的宿舍，……。 (汪曾祺：窥浴)

DOの形式構成に関しては、中川(1973)、朱德熙(1979)、沈家煊(1999)等参照。

- 19 朱德熙(1979)に“赵元任先生认为‘卖、送、输’带间接宾语时必须要有‘给’字(《汉语口语语法》161页)。他的观察似与今天北京话实际情况不符。”〔趙元任氏は“卖、送、输”が間接目的語を伴う場合、“给”の付加が必須であると考えておられるが、この観察は今の北京語の実体に即してはいない〕という指摘がある。前注に引いた中川氏のインフォーマントが年配の“老北京”であったことも記憶しておきたい。
- 20 (8)－(11)における“给”の使用に関しては、ほぼ同様の状況が湖北省大冶方言でも観察されている。汪国胜(2000)参照。“北京话”を含む“北方话”の口語では“给”を使わなくても許容されるようである。以下に挙げるのは北京の口語文法を記述した論文で見つけたものである。  
快把毛巾递我！(方梅 1991)
- 21 以下の例では、IOが固有名詞で〈\_\_\_\_+IO+(数)量詞+DO〉という環境では動詞が“给”なしで現れ、〈\_\_\_\_+IO〉という環境では“给”を伴って現れている。  
季陶民送了叶三很多画，——有时季陶民画了一张画，不满意，团掉了。叶三捡起来，过些日子送给季陶民看看，季陶民觉得也还不错，就略改改，加了题，又送给了叶三。(汪曾祺：鉴赏家)
- 22 Goldberg(1995：6. 2)は英語における二重目的語の形式的特異さについて次のように指摘する：Ditransitive expressions are syntactically unique in allowing two nonpredicative noun phrases to occur directly after the verb; the fact that English will allow such a configuration is not predictable from other constructions in the language.〔二重目的語という表現形式は構文論的に独特である。述語性のない名詞句が2つ直に動詞の後に続いている。英語にこういう形式が許されることを英語の他の構造から予測することはできない。〕
- 23 ここで留意しておくべきは、〈V给〉を述語としてIOと〈数量詞+DO〉を1つの構造にまとめる場合、IOが代名詞であるか否かを問わず、統計的に見た場合、二重目的語構文よりもむしろ“把”構文の方が優勢であるという点である。とりわけ現場で授受が完成する場合にそれが言える。杉村博文(2002)参照。  
他把一份电话记录交给贺达。(冯骥才：走进暴风雨)  
“那怎么行，多受罪。”他说着，把一瓶药递给我。(石英：结婚难)
- 24 英語の状況に関してはGoldberg(1995：2. 3. 1)を参照。
- 25 (17)の“支援”は三項動詞として認めるべきかもしれない。(18)の“纪念”は“赠送纪念品”のシーンが“纪念”を“赠送”の代用であると理解させる。袁毓林(2004)は、このような構文のものまね(“套用”)は基本レベル範疇でしか起こらないと主張するが、“麻烦”や“提醒”を授与行為の基本レベル範疇であると言えるかどうか疑問である。
- 26 一般的傾向として、同じ意味で長短二形ある場合、長い方が短い方に比べより丁寧な表現になると言われている。
- 27 相原茂他(1987：18－20)「9. 敬語はありますか」参照。
- 28 下例下線部の使い分けなどを見ると、“念着顺口”の要素も排除しきれない。  
我就和家珍商量是不是把凤霞送给别人算了，好省下些钱供有庆念书。别看凤霞听不到，不会说，她可聪明呢，我和家珍一说起把凤霞送人的事，凤霞马上就会扭过头来看我们，……(余华：活着)
- 29 南北を問わず、多くの方言においてこの点はさらに明確に出ている。例えば沈明(2002)は、“太原话‘V给’句中的‘给’本身就表示过去或完成”〔太原方言では“V给”文中の“给”自体が過去あるいは完成を表す〕と報告している。
- 30 沈家煊(1999)は“如果加‘了’须加在……‘V给’后，一般要把O提前”〔“了”を加える場合は〈V给〉の後に加えなければならない、通常、目的語(DO)を提前する〕と述べ(注①)，“我把那所房子卖给了你”を例として挙げている。
- 31 この“送给她”は“端给她”あるいは“给她送去”の意味であろう(7. 2参照)。このような使い方は珍しい。作者の尤凤伟は“1943年生，山东牟平县人”と紹介されている。
- 32 下例“拍”は外向き移動動詞として使われたものであるが、「叩く」から「接触」へ、「接触から

移動へ」という意味拡張が行われたものであろう。但し日本語では「彼に叩き付ける」と言い、「彼に叩きやる」とは言わない。

十分钟，我把那检讨写完了。“啪”，拍给他。(陈建功：前科)

- 33 卢建(2003)には“张三扔李四一本书”という例が授与構文の例として挙げられている(「多くの被験者が授与の意味に理解した」)。興味深いのは、それに“了”を加えて“张三扔了李四一本书”とすると授与の読みが消え、例外なく“张三把李四的书给扔了”と読まれるという報告である(6.2, 6.4.3参照)。“张三卖了李四一本书”でも被験者40人中27人が“张三把李四的书给卖了”と理解している。

- 34 袁毓林(2004:3)はサッカーというシーンの中で成立する例として“小明踢小华一个斜线球”を挙げ、次のように述べる:「典型动词的论元结构被结构包装之后, 这个结构(或称句式)也就获得了原型的格式意义, 并且句式作为一种形式和意义的配对具有相当的模型性。它能把那些在语义上跟句式意义不同、但是又不相抵触的动词吸收进来。」[(ある意味タイプに)典型的な動詞の項構造が(シンタクティカルな)構造としてパッケージ化されると、この構造(或は構文)もプロトタイプのパターン義を獲得し、且つ形式と意味の結合体として強い模造性を有することになる。(その結果)それは、構文義と意味的に異なりはするが、しかしまた抵触することのない一部の動詞を(自らの中に)取り込むことができるのである。]

そして、このような語彙の“吸収”は“表达精细化 elaboration”(授与を表すと同時に、その方式をも伝える[投げ与える])に対する欲求によって語用論的に動機づけられているとする。確かに一般論として、“扔、抛”や“踢”が二重目的語構文を構成しうる可能性は高いであろうし、それが実現した場合、袁毓林(2004)はそのメカニズムを正しく把握したものと言えよう。しかし語用論的な動機づけに関して言えば、(V+给)という形式の採用も含め、“吸収”しないで済ますことのほうが中国語の実際として圧倒的に多い以上、方式のプラスだけでは“表达精细化”への動機づけとしてまだ弱いように思われる。受領者の背景化といった視点も取り込まれていいのではないだろうか。6.5の議論を参照。

- 35 「投げつける」は通常、投擲目標を“朝”や“向”で導き表現する。例えば、

吴老汉狠狠地将一本破书朝他扔去。(吕新：圆寂的天)

“嚎什么！畜生！”人们向他扔石头。(宗璞：鲁鲁)

投擲目標を“给”で導き動詞の前に置けば、同じく「投げてくれる」ではあっても、授与を表す“扔给”との対立から、以下のように「ありがた迷惑」な方向へと傾斜する。

再说把球迷得罪太多，说不定哪天给我扔西红柿、易拉罐，实在犯不着。(柳荫：球迷嘴里没实话)

- 36 张伯江(1999)に従えば、授与行為が「動作行為発生の現場で完遂される」か否かに両者の違いを求めることになる。张伯江(1999)は二重目的語構文を“双及物式”(ditransitive construction)と呼んで、Goldberg(1995)を参考にそのプロトタイプを次のように定義する:“在形式为‘A+V+R+P’的句式里, 施事者有意地把受事转移给接受者, 这个过程是在发生的现场成功地完成的。”[<A+V+R+P>という形式の構文において、AGENTが自らの意志でPATIENTをRECIPIENT(の支配下に)に転移譲渡し、その過程は発生の現場で成功裏に完遂される。]

- 37 上海語の例は“结拨伊件绒线衫”(標準語: \*织给他件毛衣)、“买拨我一根项链”(標準語: \*买给我一根项链)など。三木(2002)参照。

- 38 下例は“写”が“给”を伴った上で二重目的語を帯びた珍しい例である。作者は北方作家(1948年北京生まれ)であるが、朱德熙(1979)はMAKE型動詞と“给”の合作によるこのような構文の成立を否定している。

在阿勒泰，华北曾经写给海涛一首情诗。(张承志：北方的河)

また、以下の例は“把”構文において“写”が述語となり“给+IO”を伴ったもので、作者は“京派作家”である。

金秀，你把陈玉英家的地址写给我。(陈建功·赵大年：皇城根)

- 39 “死给你们看”などでは主語として取り立てられるべきNがもともと存在しない。例えば“你们

要打我，我就头撞墙死给你们看。”この場合、空位になったのは“一个”で（“死一个给你们看”），“一个”は移動すると「ゼロ形式」になると説明するのであろうか。下例参照。

小吴就在楼上自家阳台上喊：他妈的，不就是个死吗，活着还有啥意思。我要飞一个给你们看看。（石钟山：片警杨杰的一天）

- 40 次のような例が発見された。

墓志铭写给死人，却是给活人看的。（刘恒：虚证）

これは“墓志铭是写给死人看的，却是给活人看的。”から下線部が省略されてできあがったものと考えておく。このような操作は珍しいものではない。例えば、

当然他是秉公办事，当然他明明看清楚的。（毕淑敏：一厘米）

この文を完璧な形に作れば“当然他是秉公办事的，当然他是明明看清楚的。”となるが、現実の文では1つ目の“的”と2つ目の“是”が落ちている。

- 41 コーパスに発見できる取得型第Ⅰ構文の実例は僅少である。これはおそらく取得型第Ⅰ構文が相当に口語的な表現であることを物語るのであろう。周国光(1997)によれば、言語習得の初期（1～5歳）にも取得型第Ⅰ構文は出現しない。加えて、第Ⅰ構文の上に授与と取得が重なる現象は汎方言的なものではない。広州方言では、授与は“你借五本书我”のように表現され、取得は“你借我五本书”のように表現される。詳しくは黄伯荣主编(1996)、刘丹青(2001)等参照。

- 42 授与と取得の上位に“使转移”を置く主張は仁鷹(2000)にすでにある。袁毓林(2004)も第Ⅰ構文の上に授与と取得が重なる現象を特に問題視はせず、“转移”構文に授与動詞が入れば授与構文となり、取得動詞が入れば取得構文になるだけのことであり、動詞と構文の“互动”（interaction）で意味は決定されると片付けている。张伯江(1999)は、张国宪とも袁毓林とも異なり、取得型第Ⅰ構文の出自は授与型第Ⅰ構文が拡張して生じたものであるとする分析を提出したが（“汉语里表‘给予’的双及物式可以引申出表示‘取得’的语义”〔中国語の「授与」を表す二重他動構文は「取得」の意味を導き出すことができる〕）、その後の進展は見られないようである。

- 43 李宇明(1996)はこのような文脈において“的”の付加は必ずしも必須ではないが、付加した方が自然であると指摘している。以下の諸例は“的”が付加されていないにもかかわらず、単一目的語とみなす方が勝っている。

你们干吗抢人家书包！[どうして人のカバンを……]

你们抢小孩儿东西就不对！[ちっちゃい子の物を……]

叫你这么一说，我真有拿了死人钱的感觉。[死んだ人のお金を……]

これらの例において所有者はいずれも「特定の所有者」としてではなく、むしろ所有物の「属性を規定する成分」として働いている。例えば最初の例（あんたらはどうして人のカバンをむりやり取り上げたりするんだ）で「人の」は「所有権が自分ではなく人にある」という意味を表している。

- 44 汪国胜(2000)参照。

- 45 例えば顾阳(1999)。

- 46 “拿”を与奪未指定と見るか否か、意見が分かれる。例えば、朱德熙(1979)は“拿”をTAKE型動詞に分類し、袁毓林(2004)はそこから更に一歩進み、“拿”を“给”に対置し得る抽象度の高いTAKE型動詞だと見ている。しかし、両者ともに“拿给+IO”の存在との折り合いをどうつけるかは考慮されていない。

- 47 张伯江(1999)より引用。张国宪(2001)は“端了他一盤菜”を例として挙げる。“端”は“平举着拿”（平らに上げて持つ）という意味で、KICK型へもTAKE型へも転びうる。しかし“端了他一盤菜”はTAKE型の意味（彼から料理を一皿取り上げた）にしかならない。

- 48 この術語は沈家煊(2000)に由来するようである。

- 49 Taylor(1997)、佐々木(2000)など参照。

- 50 恐らく正しくは〈V+動量+DO〉の中にIOが割って入ったと言わなければならない。授与型二重目的語構造に対して一般的に行われている“动宾结构带宾语”という分析を、“收过我两回钱”のIC構造に対して適用することは困難であろうと思われる。即ち{〔收过我两回〕钱}。“做了我

二十年情人”(陆丙甫 2004)なども同様である。

51 阎连科は河南、雪原は吉林の作家である。

52 古川(2001)は授与型第Ⅰ構文のIOを“受者”, 取得型第Ⅰ構文のIOを“授者”と呼び分け, “与事”や“夺事”と同じレベルの議論になっている。これは古川(2001)の狙いが, 記述の抽象度を高めることにはなく, むしろ事態把握の逆転現象が同一スキーマに託される事例の提供にあったからであろう。

53 今井(2002)にこの方向の議論が見られる。佐々木(2000)は二重目的語構文において“拿”が授与ではなく取得に向かう理由を中国語の動詞の結果性の乏しさに帰因させ, 結果性の乏しさが「事後所有の発生=“我”への授与」ではなく「事前所有の消滅=“我”からの奪取」を引き起こすという議論を展開している。しかし, 動詞が“了”と数量詞を伴ってなお結果性に欠けるとするのは無理であろう。問題は, 動詞個々の意味特徴を超えて成立する強い[+与]の構造義が第Ⅰ構文に存在せず, 動詞句“拿钳子”にも“找钱”に類する強い[+与]の構造義が成立していないことである(第7章例(1)(2)を参照)。上述のように, 仁鹰(2000)、张国宪(2001,2002)、袁毓林(2004)は第Ⅰ構文の標準語における構文義を, 方向未指定の“使转移”だとしている。

54 沈家煊(2000b)参照。

55 このような観点は, 授与型には回数を加えることができないが, 取得型にはそれが可能であるとする张伯江(1999)の指摘に符合するかもしれない。即ち, 授与型では回数を加えると動詞が管轄しなければならない後方成分が3つに増えて構造的に無理が生じるが, 取得型ではそれを2つまでに抑えることができるため, 構造的な無理はより少ないという分析である。3.3の議論を参照。ただし, 张伯江(1999)の指摘には以下のような反例が存在し, なお調査が必要である。

你既然给了她一次生命, 你就得做得更好一些, 更多一些。(毕淑敏: 血玲珑)

我几乎是看着她长大的, 我已经送了她16次生日蛋糕了。(张抗抗: 情爱画廊)

“一次生命”は名量詞句と言っても通るだろう。また, 邓思颖(2003: 143)には“张三送了那个人两次礼物”という例が挙がっている。

56 今井(2003)に“我买了他三本书”を“我买了书店三本书”と言い換えると文の許容度が下がるという指摘がある。日本語でも「彼の/から本を三冊買った」は自然だが, 「本屋の/から本を三冊買った」は「本屋」を「本屋の主人」或いは「擬人化された組織」として読まない限り不自然である。この辺りの事情が取得型第Ⅰ構文とどう関わるか興味深い。

57 筆者のインフォーマントの一人(台北人, 30代, 大学卒)は, “老王买了我一把旧椅子”に対し次のような読みを行った。①“旧椅子”に骨董品の価値を認め, 売った私の方が損をした。②購入を嫌がる相手に, 粘って“旧椅子”を買わせた。パラフレーズしてしまえば, このようなニュアンスは消える。

58 陆丙甫(2004)参照。

59 二重目的語説を支持する陆俭明(2002)は, 動詞が“总共”“一共”によって修飾されるとIOは“的”を伴うことができないことを指摘し, 陆丙甫はその理由を, “总共”“一共”は数量句(“数目短语”)と共起することを求めるが, IOが“的”を伴えば, 全体が1つの構造体となり, 指示句(“指称短语”)になってしまうからであると解釈する。そこで“一共吃了他三个苹果”などにおいて, “他三个苹果”は1つの構造体ではなく, 別々の2つの成分, 即ち二重目的語であるということになる。しかし, 以下のように“一共”と数量を含む指示句の共起は可能であり, この問題はもう少し調査が必要のように思われる。

她母亲一共生了她们姐儿仨, 古城还有一个妹妹……(胡跃: 危机四伏)

全城一共才有那么几家药店。(汪曾祺: 异秉)

我一共看过他两出戏: 《得意缘》和《探母》。(汪曾祺: 云致秋行状)

60 李临定(1986: 8.13)はGIVE型以外の動詞が“给”を帯びて二重目的語構文を構成すること自体よく見られる現象ではないと指摘した上で, 次のように述べている: “以‘写’为例, ‘他写给我一封信’(‘动+给’(2)型), 一般都认为是能够成立的。但在我们所收集到的资料里, ‘写’和‘给’组成的句子共有十七条, 而‘给+名’在句末的, 有十条, ‘给+名’在动词前边的, 有七条, 没

- 有一条是‘动+给’(2)型的。〕〔“写”を例に取る。“他写给我一封信”(彼は私に一通の手紙を書いた,“动+给”(2)型)は一般に成立するとみなされているが,筆者の収集した資料によれば,“写”と“给”で構成された計17例の内,“给+名”が文末に現れたもの10例,“给+名”が動詞の前に現れたもの7例で,“动+给”(2)型は一例もない。〕この指摘はそのまま“打电话”にも該当する。
- 61 関(2001)は“……X写了一封信……(信是)写给Y的……”というディスコースの展開に注目し,“写了一封信”を承けての展開では,“写给Y”が“给Y写”よりも優勢になると指摘している。
- 62 方言の影響があるかもしれない。赵树理は山西省沁水の出身である。
- 63 施关淦(1981)は“寄”が単独で二重目的語を取ることを認めているが,朱德熙(1979)および近年の論文はすべてその成立を否定している。马庆株(1992)は“口语”(おそらく“北京口语”)と限った上で,“寄、汇、发”に“给”を伴わず二重目的語を帯びる能力を認めている。
- 64 (20)を“有一位边防战士给她寄了一听……”としたらどうかという筆者の問いに答え,あるインフォーマントは,そのようにすると(20)には感じられない“边防战士”の“她”に対する親密さが感じられると答えた。“寄给了她……”で“她”は,小包郵送後の客観的終点として扱われているにすぎないが,“给她寄了……”で“她”は,郵送前に選び出された主観的終点として捉えられる。
- 65 Hudson(1992)参照。このことは中国語に多い「動詞コピー構文」——“他洗衣服洗累了”“他开车开得很稳”など——の存在とも当然関わって来よう。
- 66 標準語において,第I構文の使用環境は極めて限定されていたが,“香港粤语”においても第I構文に相当する〈V+DO+IO〉に使われる動詞は少なく,Hashimoto(1993)によるとほぼ“昇”と“送”に限られるようである。“广州话”では〈V+DO+IO〉に出る動詞がもう少し多様で,DOが数量詞を伴っていれば,標準語と同じ語順をとることもある(例えば“佢畀我三部曲”)。この語順は標準語の影響を受けた結果であると言われる。黄伯荣主编(1996)参照。
- 67 “递”“发”が第I構文を構成した例は第3章例(4)(7)参照。以下に“递”の例を補充しておく。  
医生没有嫌脏,给五婶号了脉……,去口袋摸索,孩娃就忙递他一张作业纸。(阎连科:家诗)  
他笑了笑,递我一支烟。(陈建功:放生)  
双下巴的主人递我一杯兑了冰水的“人头马”并拍着我的肩膀说:……(刘心武:洗手)
- 68 “放桌子上一包火柴”に類する例文がしばしば文法論文に見られるが,標準語に取り込まれてはいないと言ってよいであろう。第6章例(24)(25)参照。

## 【参考文献】

- 中川正之(1973):〈二重目的語文の直接目的語における数量限定詞について〉,『中国語学』218,19-23。
- 大河内康憲(1985):〈量詞の個体化機能〉,『中国語学』233(『中国語の諸相』,53-74,白帝社,1997)。
- 相原茂他(1987):『中国語入門Q&A 101』,大修館書店。
- 杉村博文(1997):〈名詞性連体修飾語と構造助詞“的”〉,『大河内康憲教授退官記念 中国語学論文集』,279-302,東方書店。
- (2000):〈“给”の意味と用法〉,『中国語』2000年2月号,64-66,内山書店。
- (2001):〈目上の人に“给”は失礼〉,『中国語』2001年8月号,内山書店。
- 佐々木勲人(2000):〈中国語の受損構文〉,『空間表現と文法』,249-267,くろしお出版。
- 関光世(2001):〈“V给”文の意味特徴に関する考察〉,『中国語学』248,153-167。
- 林璋,佐佐木勲人,徐萍飛(2002):『東南方言比較研究—寧波語・福州語・厦門語の分析—』,好文出版。
- 三木夏華(2002):〈北部呉語の授受構文に見られる介詞の史的変化〉,『中国語学』249,110-128。
- 今井俊彦(2002):〈中国語における二重目的語文の希少性〉,『中国語学』249,229-246。
- (2003):〈中国語における数量詞の意味と機能—二重目的語文を中心として—〉,『中国語学』250,103-121。

- 朱德熙(1979):〈与动词“给!”相关的句法问题〉,『方言』1979年第2期,81-87。
- (1983):〈包含动词“给”的复杂句式〉,『中国语文』1983年第3期,161-166。
- (1987):〈现代汉语语法研究的对象是什么?〉,『中国语文』1987年第5期,321-329。
- 施关淦(1981):〈“给”的词性及与此相关的某些语法现象〉,『语文研究』1981年第2期,31-38。
- 吕叔湘(1982):『中国文法要略』(汉语语法丛书),商务印书馆。
- 徐 枢(1985):『宾语和补语』,黑龙江人民出版社。
- 李临定(1986):『现代汉语句型』,商务印书馆。
- (1986):『现代汉语动词』,中国社会科学出版社。
- 陈建民(1986):『现代汉语句型论』,语文出版社。
- 贝罗贝(1986):〈双宾语结构从汉代至唐代的历史发展〉,《中国语文》第三期,204-216。
- 方 梅(1991):〈具有提示作用的“是”字句〉,《中国语文》1991年第5期,342-346。
- 李宇明(1996):〈领属关系与双宾语分析〉,『语言教学与研究』1996年第3期。
- 黄伯荣主编(1996):『汉语方言语法类编』,青岛出版社。
- 李如龙,张双庆主编(1997):『动词谓语句——中国东南部方言比较研究之三』,暨南大学出版社。
- 周国光(1997):『汉语句法结构习得研究』,安徽大学出版社。
- 张国宪,周国光(1997):〈索取动词的配价研究〉,『汉语学习』1997年第2期,3-9。
- 沈家煊(1999):〈“在”字句和“给”字句〉,『中国语文』1999年第2期,94-102。
- (2000a):〈句式 and 配价〉,『中国语文』2000年第4期,291-297。
- (2000b):〈说“偷”和“抢”〉,『语言教学与研究』2000年第1期,19-24。
- 徐 杰(1999):〈“打碎了他四个杯子”与约束原则〉,『中国语文』1999年第3期,185-191。
- 张伯江(1999):〈现代汉语的双及物结构式〉,『中国语文』1999年第3期,175-184。
- 顾 阳(1999):〈双宾语结构〉,徐烈炯主编『共性与个性』,60-90,北京语言文化出版社,1999年。
- 仁 鹰(2000):『现代汉语非受事宾语句研究』,社会科学文献出版社。
- 周长银(2000):〈现代汉语“给”字句的生成句法研究〉,『当代语言学』2000年第3期,155-167。
- 汪国胜(2000):〈大冶方言的双宾语〉,《语言研究》第3期,88-98。
- 古川裕(2001):〈外界事物的“显著性”与句中名词的有标性——“出现、存在、消失”与“有界、无界”〉,『当代语言学』(2001)年第4期,264-274。
- 刘丹青(2001):〈汉语给予类双及物结构的类型学考察〉,『中国语文』2001年第5期,378-398。
- 刘乃仲(2001):〈关于“打碎了他四个杯子”与约束原则一文的几点疑问〉,『中国语文』2001年第5期,555-557。
- 陈淑梅(2001):〈汉语方言里一中带虚词的特殊双宾语式〉,『中国语文』2001年第5期,439-445。
- 张国宪(2001):〈制约夺事成分句位实现的语义因素〉,『中国语文』2001年第6期,508-518。
- (2002):〈双宾语结构式的语法化渠道与“元”句式语义〉,第11届国际中国语言学会年会论文。
- 杉村博文(2002):〈现代汉语“把”字句“把”的宾语带量词“个”〉,『世界汉语教学』2002年第1期,18-27。
- 周 磊(2002):〈乌鲁木齐话的“给”字句研究〉,『方言』2002年第1期,16-23。
- 沈 明(2002):〈太原话的“给”字句〉,『方言』2002年第2期,108-116。
- 陆俭明(2002):〈再谈“吃了他三个苹果”一类结构的性质〉,『中国语文』2002年第4期,317-325。
- 邓思颖(2003):『汉语方言语法的参数理论』,北京大学出版社。
- 陆丙甫(2003):〈“的”的基本功能和派生功能:从描写功能到区别性再到指称性〉,『世界汉语教学』2003年第1期,14-29。
- (2004):〈作为一条语言共性的“距离-标记对应律”〉,『中国语文』2004年第1期,3-15。
- 卢 建(2003):〈影响与夺不明双宾语句理解的因素〉,『中国语文』2003年第5期,399-409。
- 满在江(2004):〈与双宾语结构形同质异的两类结构〉,『语言科学』第3卷第3期,79-88。
- 袁毓林(2004):〈论元结构和句式结构互动的动因、机制和条件——表达精细化对动词配价和句式构造的影响〉,《语言研究》第4卷第4期,1-10。
- D. J. Allerton (1978): Generating indirect objects in English, *Journal of Linguistics*, March 1978.



- Richard Hudson (1992): So-called 'Double Objects' and Grammatical Relations, *LANGUAGE*, Vol.68, 1992-3.
- ANNE YUE-Hashimoto (1993): *Comparative Chinese Dialectal Grammar*, ECOLE DES HAUTES ETUDES EN SCIENCES SOCIALES CRLAO, 1993.
- Masayoshi Shibatani, Zhang Qin, & Lu Tao (1994): Chinese Benefactive Constructions: Toward a Formal Analysis of the Schema-based Cognitive Approach, in *Interdisciplinary Studies on Language and Language Change*, 459-477.
- Adele E. Goldberg (1995): *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*, The University of Chicago Press, 1995.
- F. Ungerer & H. J. Schmid (1996): *An Introduction to Cognitive Linguistics*, Longman, 1996.
- John R. Taylor (1997): Double object constructions in Zulu, in John Newman (ed.) *The linguistics of giving*, 67-96, John Benjamin's Publishing Company, 1997.

(2007. 1. 18 受理)